部落解放研究第 54 回倉吉市集会

「安心して暮らせる人権尊重のまちをめざして」

【記 録 集】

～地域課題を人権の視点で考える～



○と　き　2026 年8月9日（日）13:00～17:15

○ところ　エースパック未来中心・倉吉交流プラザ・
　　鳥取県立美術館

主催　部落解放研究第 54 回倉吉市集会実行委員会

目　　次

1　主催者あいさつ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

2　開催要項・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2

3　日　　程・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4

4　基調提案・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5

5　市集会の歩み・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8

6　全 体 会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10

7　分 科 会
　分科会発表者一覧・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 35

　第１分科会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 36

　第２分科会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 39

　第３分科会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 42

　第４分科会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 43

　第５分科会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 59

8　集会アピール・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 80

主 催 者 あ い さ つ

部落解放研究第54回倉吉市集会

実行委員長　　広田　一恭

本日、部落解放研究第54回倉吉市集会を開催しましたところ、ご来賓の方々をはじめ多数の皆様のご参加をいただき、盛大に開催出来ますことを大変嬉しく思います。実行委員をはじめ関係者の皆様のご尽力に心より感謝を申し上げます。

さて、本集会は1973(昭和48)年に部落解放研究第１回倉吉市集会を開催以来、部落差別の解消を中心課題に据え様々な人権課題の解消も視野に入れ、「市民集会」として幅広く教育研究や啓発活動の実践に大きな成果を上げて来たところです。

また、本市では、第７次倉吉市あらゆる差別をなくする総合計画のもと、「お互いを認め合い、安心して暮らせる人権尊重のまち」を基本理念に掲げ、「人権教育・同和教育の推進」、「人権啓発の推進」、「相談・支援体制の充実」の３つの推進方針を定め、様々な具体的施策を講じながら、あらゆる差別の解消に向けた取り組みを進めているところです。

市民の皆様のご協力とご支援をいただき、協働して、あらゆる人権問題解消のための人権施策の確立をめざしていきたいと思います。

本日ご参加いただいた皆様には、分科会や講演会で得た学びを、家庭や地域に持ち帰り、日々の生活で実践していただきたいと思います。一人ひとりの行動が、我がまち倉吉のさらなる発展につながることを願い、主催者を代表しての挨拶といたします。

部落解放研究第５４回倉吉市集会　開催要項

１　目　　的

私たちは、人権尊重の社会をめざして、日々の暮らしの中にあるさまざまな人権課題の掘り起こしと課題解決への学習を積み重ねてきました。

現在も、世界各地では戦争や武力衝突が続き、その中で苦しんでいる人たちがいます。私たちの住む地域社会にも、まだまだ、部落差別をはじめとしたさまざまな人権課題が存在しています。近年は、インターネットやＳＮＳ等を悪用した差別事象も拡大し、特定の少数者に対する悪意ある発言や投稿が大きな社会問題になってきています。身のまわりでも私たちの気づかない差別が残っていたり新たな人権課題が生まれているかもしれないのです。

それらの人権課題に気づき、正しく知り、理解し、自らの問題として捉えながら行動していく視点に立った学習の場が今こそ求められています。

本集会は、研究主題を『安心して暮らせる人権尊重のまちをめざして～地域課題を人権の視点で考える～』と定め、参加者ひとりひとりが、自分の思いを表現しながら交流と実践を深め合う「市民集会」として開催します。

２　主　　催　　部落解放研究第５４回倉吉市集会実行委員会

３　日　　時　　２０２６（令和8）年8月9日（日）　１３時から１７時１５分
（受付開始　１２時３０分～）



４　会　　場　　エースパック未来中心、倉吉交流プラザ、鳥取県立美術館（ホール）

５　研究主題

安心して暮らせる人権尊重のまちをめざして～地域課題を人権の視点で考える～

６　講演会

演題：「生が尊重される／軽視されない社会に向けて－－無知の克服と深い共感」

講師：呉 永鎬（お よんほ）さん／鳥取大学地域学部地域学科人間形成コース准教授

7　分科会

分科会	分　野	内　容	会　場
1	同和問題	学校教育における同和教育は約７０年に渡って継続・推進されてきた。その変遷について学ぶとともに、依然として繰り返される差別事象に地域社会としてどのように向き合い、解消していくか考える。	倉吉交流プラザ 第１研修室
2	障がいのある人の人権	障がいについて正しく理解するとともに、障がいの有無に関わらず、すべての人の自立と社会参画を可能にするための地域の役割や課題について考える。	ｴｰｽﾊﾟｯｸ未来中心 ｾﾐﾅｰﾙｰﾑ１
3	こどもの人権	児童虐待・不登校・いじめ・貧困・ヤングケアラー・スマホ／ＳＮＳトラブル等、急速に多様化・複雑化・深刻化する「こども」を取り巻く人権課題と、地域課題との結びつきやその解決方法等について考える。	倉吉交流プラザ 視聴覚ホール
4	高齢者の人権	「人生１００年時代」を迎え、年齢に関係なく意欲と能力を活かして活躍する機会・人材が増えるなか、高齢者の人権課題について学び、その社会参画の促進や地域課題との結びつきについて考える。	ｴｰｽﾊﾟｯｸ未来中心 ｾﾐﾅｰﾙｰﾑ３
5	新たな人権問題	社会的な多数者（ﾏｼﾞｮﾘﾃｨｰ）が少数者（ﾏｲﾉﾘﾃｨｰ）に対してもつ無意識の特権意識や差別意識の構造について学ぶとともに、自身や自身の生活する地域のなかにあるﾏｼﾞｮﾘﾃｨｰ性・ﾏｲﾉﾘﾃｨ性との向き合い方について考える。	鳥取県立美術館 ホール

8　部落解放研究第５４回倉吉市集会実行委員会構成団体

倉吉市人権教育研究会　部落解放同盟倉吉市協議会　倉吉市保育園長会　倉吉市私立認定こども園協会　倉吉市小学校長会　倉吉市中学校長会　倉吉市小学校人権教育主任者会　倉吉市中学校人権教育主任者会　中部地区高等学校同和教育研究会　学校法人藤田学院鳥取看護大学・鳥取短期大学　倉吉市小学校・中学校ＰＴＡ連合会　倉吉市人権啓発企業連絡会　倉吉市同和対策雇用促進協議会　倉吉市公民館連絡協議会　倉吉市自治公民館連合会　倉吉商工会議所　連合鳥取中部地域協議会　倉吉市職員労働組合　倉吉市建設協議会　ＪＡ鳥取中央　倉吉市社会福祉協議会　倉吉市社会福祉施設連絡協議会　倉吉市老人クラブ連合会　倉吉保護区保護司会倉吉分区　倉吉人権擁護委員協議会　倉吉市民生児童委員連合協議会　倉吉市身体障害者福祉協会　倉吉市手をつなぐ育成会　倉吉市精神障がい者家族会　倉吉市仏教会　倉吉男女共同参画推進会議　とっとり多文化共生市民の会・倉吉　倉吉市児童館連絡会　倉吉市母子寡婦福祉連合会　倉吉市更生保護女性会　倉吉市食生活改善推進員連絡協議会　鳥取県男女共同参画センター　各地区同和（人権）教育研究会　各地区同和教育推進員連絡協議会　各保育園保護者会　各認定こども園ＰＴＡ　各小学校・各中学校・養護学校ＰＴＡ　在日本大韓民国民団鳥取県地方本部倉吉分団　在日本朝鮮人総聯合会倉吉支部　倉吉市教育委員会　倉吉市

【事務局】　部落解放研究第５４回倉吉市集会実行委員会事務局
（倉吉市人権政策課内）
倉吉市堺町２丁目 253-1　　℡：22-8130／Fax：22-8230
E-mail ： jinkenseisaku@city.kurayoshi.lg.jp

《　日　程　》

全 体 会

受　付　　１２：３０～

1　開会行事　　１３：００

主催者あいさつ　　広田一恭 実行委員長

来賓あいさつ　　福谷直美 倉吉市議会議長

閉会あいさつ　　中江雅文 副実行委員長

2　講 演 会　　１３：３０

テーマ　「生が尊重される／軽視されない社会に向けてーー無知の克服と深い共感」

講　師　呉 永鎬（お よんほ）さん／鳥取大学地域学部地域学科人間形成コース准教授

3　閉　会　　１５：００

（会場移動　　１５：００～１５：１５）

分 科 会

受　付　　１５：００～

1　分科会討議　　１５：１５ ～ １７：１５

第１分科会：倉吉交流プラザ　第１研修室

分　野「同和問題」

テーマ　学びなおし部落問題

第２分科会：ｴｰｽﾊﾟｯｸ未来中心　ｾﾐﾅｰﾙｰﾑ１

分　野「障がいのある人の人権」

テーマ　相手を思いやる気持ち～障がいと共に知り、学ぼう～

第３分科会：倉吉交流プラザ　視聴覚ホール

分　野「こどもの人権」

テーマ　ＡＩ時代の青少年のメディアとのつきあいかた
～子どもをネットトラブルから守るために～

第４分科会：ｴｰｽﾊﾟｯｸ未来中心　ｾﾐﾅｰﾙｰﾑ３

分　野「高齢者の人権」

テーマ　誰もが安心して老いることのできる社会とは

第５分科会：鳥取県立美術館　ホール

分　野「新たな人権問題」

テーマ　このモヤモヤはなんだろう？

2　閉　会　　１７：１５

基　調　提　案

はじめに

私たちは、人権尊重の社会をめざし、日々の暮らしの中にあるさまざまな人権課題を学び、その解決に向けて取り組んできました。しかし、法整備や施策が進む一方で、差別や偏見が生活や意識の中に深く残り続けている現状があります。近年では、インターネットやSNSを悪用した差別的な言動が拡散され、被差別部落、LGBTQ、アイヌ民族、在日外国人など、特定の少数者に対する悪意ある投稿が社会問題となっています。

また、世界では今も戦争や武力衝突が続き、平和と人権が脅かされています。2025（令和７）年は戦後80年・被爆80年という節目の年であり、今後も、恒久平和と核兵器廃絶の実現に向けた取り組みが一層求められています。こうした状況の中で、私たち一人ひとりが人権課題に気づき、正しく知り、理解し、自らの問題として捉えながら行動していく視点が必要です。

本集会は、研究主題「安心して暮らせる人権尊重のまちをめざして ～地域課題を人権の視点で考える～」のもと、市民が共に学び、交流し、実践を深め合う場として開催します。

１　これまでの歩み

第１回市集会は1973（昭和48）年８月に開催され、「部落解放運動の歴史と伝統に学ぶ」「同和対策審議会答申の理解」「解放運動、教育・保育、行政の３者一体での同和教育推進」を中心に議論が進められました。その後も、社会情勢や市民の人権意識の変化に応じながら、「部落差別の現実から深く学ぶ」姿勢を大切にし、家庭・学校・職場・地域ぐるみで「人権尊重のまち」づくりをめざして学習と実践を積み重ねてきました。

倉吉市では1994（平成６）年に「倉吉市部落差別撤廃とあらゆる差別をなくする条例」を施行し、1996（平成８）年には「倉吉市あらゆる差別をなくする総合計画」を策定しました。「お互いを認め、尊重し合える人権文化のまちづくりを市民の手で」という理念のもと、市民一人ひとりが人権を尊重し合う社会の実現をめざして取り組んできました。この市集会もその重要な柱の一つです。

日本社会における人権問題への取り組みは、1922（大正11）年３月３日に全国水平社が創立されたことにより大きく前進しました。創立大会で採択された「水平社創立宣言」は日本初の人権宣言とされ、その最後の言葉「人の世に熱あれ、人間に光あれ」には、すべての人が差別なく人間らしく暮らせる社会を願う強い意志が込められています。

しかし、2016（平成28）年に「部落差別解消推進法」が制定された後も、インターネット上での差別的投稿や個人情報の暴露、ヘイト事件などが続き、部落差別の解消には至っていません。差別の形態は変化しながらも根強く残っており、引き続き取り組みが求めら

れています。

２　近年の私たちを取り巻く状況について

（１）国際情勢の悪化と平和の危機

国際的には、経済・政治のグローバル化が進む一方、国家間の武力衝突や紛争が続き、深刻な人権侵害が日常化するなか、平和を実現するための具体的な行動が求められています。また、戦後 80 年を経た今、核兵器廃絶と平和構築の重要性は一層高まっています。

戦争は最大の人権侵害であり、反戦や平和を願う取り組みは、一人ひとりの人権が確かに保障される社会の実現につながっています。

（２）国内の人権課題と法整備の進展

2016（平成 28）年以降、「障害者差別解消法」「ヘイトスピーチ解消法」「部落差別解消推進法」「LGBT 理解増進法」などが施行され、人権意識の向上が図られてきました。しかし、インターネットの普及により、差別的投稿やヘイトスピーチが拡散されやすくなり、新たな形の差別が生まれています。

被差別部落の情報の「さらし」、在日コリアンへのヘイトクライム、外国人労働者への人権侵害、優生思想に基づく事件、ハラスメントやフェイクニュースの拡散など、深刻な問題が続いています。

これらの課題に対し、既存の法律の趣旨を理解し生かすだけでなく、「差別禁止法」や「人権侵害救済法」の制定など、さらなる法整備が必要です。

（３）コロナ禍が残した課題と社会の変化

2019（令和元）年以降の新型コロナウイルス感染症の拡大は、「コロナ差別」と呼ばれる偏見や誹謗中傷を生み、感染者や医療従事者への差別的言動が人々の尊厳を脅かしました。2023（令和５）年に感染症法上の位置づけが「５類」に移行し、日常生活は戻りつつありますが、情報不足や偏見による人権侵害が再発しないよう、正確な情報に基づく行動が求められています。

３　私たちの学びと行動について

私たちは、部落差別をはじめとする身近な人権問題を「わがこと」「自分ごと」と捉える努力を続けてきました。市集会や町内学習会、人権研修会などへの参加を通じて、市民一人ひとりが参画し、安心して暮らせる地域づくりの重要性を学び、その価値を共有してきました。

日常生活の中で、周囲の人々への理解と共感を深め、困難を抱える立場の人々を地域全体で支える取り組みが、人権尊重社会の実現につながります。これからも、自分にできる具体的な行動を見出し、共に実践していくことが求められます。

また、コロナ禍で一時的に薄れた「対面での学び」を再び強化し、人権意識を深めるための新たな工夫が必要です。より良い社会をめざすための学びと行動を継続していきまし

ょう。

おわりに

今年の研究主題「安心して暮らせる人権尊重のまちをめざして～地域課題を人権の視点で考える～」のもと、多様な価値観や背景を持つ人々が互いに尊重し合い、支え合う社会の実現に向けて、共に学び合いましょう。

参加者それぞれの意見や経験談に耳を傾け、多様性を尊重し合いながら対話を深めることが、新たな気付きや課題の共有につながります。結論を導くだけでなく、そこに至るまで共に考え続けることが大切です。対話の積み重ねは、差別の解消に向けた確かな一歩となります。

本集会を通じて、誰ひとり取り残されることのない共生社会の実現に向けた具体的な一歩を、参加者全員で見つけていきましょう。

部落解放研究倉吉市集会の歩み

本研究集会は、1973（昭和 48）年に県内で初めて開催されて以来、市民による部落解放研究集会として約 50 年の歴史を刻んできました。

第 1 期（第1回～第6回）：
同和教育の筋道を模索し広める時期

「解放をめざして教育の創造を」を研究主題として、対象別分科会方式で、活発な意見交換が行われました。第4回以降は、具体的な実践発表が増え、また、参加者も 600 名から 1,000 名近いものとなりました。

第2期（第7回～第 12 回）：
推進体制の整備と内容の充実を図る時期

同和教育を全市民のものにするために、研究主題を「部落解放を全市民の手で」と改め市民が自らの課題として自覚し、考え集う研究集会に充実されてきました。分科会も対象別から課題別に構成されたことにより、幅広い市民の参加と意見交換が行われるようになりました。

第3期（第 13 回～第 24 回）：
同和教育の総括と「部落解放基本法」制定へ向けた取り組みの時期

第 13 回研究集会は、同和対策審議会答申が出されて 20 年目にあたる年であり同和教育、部落解放運動の成果と課題が総括され、次年度に向けての研究・実践の方向が明確にされました。第 15 回集会は「地対財特法」施行の初年度にあたり、部落の完全解放に向けて法の内容が後退している事実と差別の現状が明らかにされ、「部落解放基本法」の制定が必要であることが確認され、制定要求へ向けての市民運動を盛り上げることが決議されました。第 20 回集会は、全国水平社創立 70 周年という部落解放運動にとって節目の年であり、この集会から「部落解放にむけて、あらゆる差別をなくする取り組みをどう進めてきたか、またその課題は」という分科会が新設されました。第 21 回集会は 1,150 名という多数の市民参加を得て盛大に開催できました。全国的に「部落解放基本法」制定要求の運動が高まり、本市も「部落解放基本法制定要求国民運動倉吉市実行委員会」が組織され、「基本法」制定実現に向けての第6分科会が新設されました。1994（平成6）年の第 22 回集会は、その年6月に制定された「倉吉市部落差別撤廃とあらゆる差別をなくする条例」を受け、「人権尊重都市宣言のまち倉吉」を全市民のものとしていくためのシンポジウムを開催し、「条例」の意義、人権確立の具体化への課題等を共通確認しました。そして、第 23 回集会より「人権教育のための国連 10 年」並びに「条例」の具体化をふまえ、部落解放に向けた人権啓発の発展及び反差別の市民運動の重要性を実感する研究集会の方向をめざしました。

第4期（第 25 回～第 48 回）：
同和教育の豊かな発展と反差別市民運動による人権文化の創造をめざす時期

市民一人ひとりが、「倉吉市あらゆる差別をなくする総合計画」の完全実施及び「部落解放基本法」制定をめざし、多文化共生社会を生きる力を身につけ人権文化の創造の主体者となるため、「部落の完全解放と人権の確立を全市民の手で」と研究主題を新たにしました。

その後、第 37 回市集会より市民主導で実施されてきた部落解放研究倉吉市女性集会と統一し、その手法を生かしながら研究主題を「部落の完全解放と人権の確立を全市民の力で」と改正しました。

そして、2009（平成 21）年に「倉吉市部落差別撤廃とあらゆる差別をなくする条例」を一部改正し、市民と行政との協働をめざしました。

第5期(第 49 回～):

大きく変容する社会の中で誰もが人権教育を身近なものとして捉え、学びの継続と実践に取り組む時期

新型コロナウイルス感染症で社会が大きく変化し、いわゆる「コロナ差別」が社会問題になりました。また、感染対策の観点から、本集会の開催に替えての啓発資料作成や、参加者を限定してのパネルディスカッションの実施と記録配付、会場参加とオンライン参加とのハイブリッド開催など、試行錯誤の中で学習を継続してきました。そうした状況の中で市集会の目的について検討がなされ、その年ごとで特に学習を深めるべきテーマを研究主題に設定することになりました。

また、2021(令和3)年度から「第6次倉吉市あらゆる差別をなくする総合計画」の推進に向け、「お互いを認め、安心して暮らせる人権尊重のまち」を実現するため、継続して市民と行政との協働をめざしています。

部落解放研究第５４回倉吉市集会全体会（講演会）

演題：「生が尊重される／軽視されない社会に向けて－－無知の克服と深い共感」
講師：呉 永鎬（お よんほ）さん／鳥取大学地域学部地域学科人間形成コース准教授

皆さんこんにちは。
鳥取大学の地域学部で教員をしております、呉永鎬と申します。
今日は、暑い中、日曜日にもかかわらず、ご参集いただきありがとうございました。
先ほどの開会行事の様子を私も聞いていて、この集会が、様々な思いや努力や或いは工夫の中で、歴史を積み重ねてきたんだということをとても感じました。
ただそれを意識しすぎると、私プレッシャーで押しつぶされて何も話せそうにないので、用意してきたものを、気楽にお話させていただきたいと。気楽にとは言っても、テーマは重いですけど。
私なりの、今まで人生で考えてきたことをお話しさせていただければと思ってます。
今日の配布資料の中に、私の資料を入れていただいています。
ホチキスでとめてある方のですね、8 ページ目から 9 ページ目ですね。
それから 10 ページ目には、参考文献として、私が今からお話させていただく内容の基盤となっているような、知識や知見を私に与えてくださった文献を記しています。
直接これらの文献を扱うことはありませんが、もし今日の講演を通して、さらに深めたいなっていう論点があった方は、ぜひ手にとっていただければなと思ってます。
前にスライドも表示してますが主には、このレジュメに沿って、今日はお話をさせていただきます。それではよろしくお願いいたします。
そうですね私は、呉永鎬と申します。
在日コリアン、在日朝鮮人の 3 世で、私の祖父母が植民地期に朝鮮半島から日本に移動してきて、育ちました。
私の父は川崎市っていう、それこそ先ほどあったヘイトスピーチのことでとても有名になってしまったところもあるんですが、在日コリアンがたくさん住んでいる地域の出身です。
母は兵庫県の明石市出身で、僕もよく明石焼を 1 年に 1 回、帰省で兵庫に帰って食べたりもしていました。
私は幼稚園から大学まで朝鮮学校っていう在日コリアンのための学校に通っていました。
大学院から、東京学芸大学、それから一橋大学っていうところの修士と博士を経て、それから京都で働いて、6 年前から鳥取大学で教員として働いています。
私の専門は教育社会学という学問です。
あんまり聞きなれない言葉ですが、教員を目指そうとしてるとか、教員免許を取りたいっていう方に向けて、主に授業をしています。

教育社会学なので、教育法そのものをどう教えるか、教育は基本的に技なんです。
何をどう教えるかって言う技なんですけど、私は技ではなくて、教育という現象が、どのような差別や排除を産んでいたり、或いは逆に包摂ができるのか、排除してる人たちをどう包むことができるのか、そういったことを研究しています。
具体的には様々なマイノリティですね、被差別部落、障がい者、性的少数者、在日外国人、様々にいますが、その教育がどう行われてきたのか、どこに難しさがあったのか。
或いは、そうではない人々ですね。マイノリティをただまなざして材料にしてきたマジョリティと言ってよいかもしれないが、そのマジョリティがどういうふうに変わっていけるのかというのを今研究をしています。
今日のタイトルは「生が尊重される／軽視されない社会に向けて」、スラッシュは「或いは」という意味です。
生が尊重される、或いは生が軽視されない社会に向けてと題しました。
そういう社会になればいいなという願いを込めて、このタイトルをつけました。
ということは逆に言えば、やはり今、生は尊重されていない、軽視されている。
残念ながら、そういう社会なんだなって思います。
生が軽視されてるってどういうことやって思うかもしれません。
ここで言う「生」は３つです。
生命、生活、生涯です。ライフ。このレジュメでも生とかライフとか、そういう言葉を使ってますが、命ですね。まずは純粋に生命のレベル、それから日々の、今日安心して暮らせるっていうのがテーマだっていうふうに先ほども伺いましたが、生活があるわけですね。
しかもそれは、すぐ一点ではなくてライフロングなんですね。生涯。
もっと長いスパン。
さらに死んだ後もです。
死んだ後も生を軽視される。骨を盗まれるとか、アイヌ、朝鮮人。帝国大学がそういうことをやってきましたが、死した後もなお生を軽視されるってことがあります。
こういう意味での生ですね。
生命・生活・生涯が尊重されていない、軽視されているなと感じること、皆さんもありますよね。
僕も何度もあります。僕はまだ健常者で男性で、強い方ですよね、権力があるほうです。マジョリティのほうなんですが、外国人であるっていうところで、いろんなことを感じたりしてきました。
それから僕、ひげが生えたり、白髪の老人みたいな感じじゃないんで、すごく「若造が」っていう感じで軽視される。もうビンビン感じるんですよ。僕大阪で、昨日集会があって、1年間準備してきた集会をやってきました。
それで今朝、スーパーはくとに乗って、ただ、スーパーはくとは満席で、ずっと立ってたんです。

お盆をなめてたなって。幸せそうな家族がいっぱい乗ってきたりして、いいんだなと思ったんですけど、その車掌さんにね、もし席が空いたらお金を払うので座れませんかみたいな。
3 人の車掌さんが通りました。
僕は別に朝鮮人だってことは言ってないし、このジャケットも着てないですよ。
するとやっぱりなんかこう、「若造が。立っとけや。」みたいな感じの扱いをする方が 1 人いました。
3 人目の方がすごく優しくて、席が空いたのでそこをどうでしょうかって言ってくださって、余りにも対応が違うので、智頭急行とＪＲは一体どういうマニュアルがとか聞いたんですけど、面倒くさい客になりたくなかったんで、それ以上は言いませんでした。
でも、見た目で軽視されてる、なんか軽んじられてるなって感じるようなことが本当日々あります。
それから、外国人であるゆえにホテルの宿泊の際とか、お店の予約の際とか、そんなこと気にしない、気にするなというささいなことかもしれないが、それがどんどん積み重なっていくような経験をしてきました。
皆さんもきっと、何かしらであるかもしれません。
女性であるということで、或いは老人であることで、或いは若過ぎて、或いはその職業でとか、或いは出身地でとか様々にあると思いますけど。
そうではない社会をどうにか目指していきたいというのが、この題に込めた思いです。
その際に、いろんなことが必要なんですけど、無知を克服するっていうことと、深い共感が必要なのではないか。これがキーワードになります。
ごめんなさい、タイトルだけでもうこんなに時間が経ってしまいましたが、それでは始めていきたいと思います。
レジュメ 1 ページ目のはじめにです。
はじめに、サブタイトルに「民主主義の危機／分断の時代を生きながら」としました。
今日の分科会のタイトルにもあるように、例えば 1 つですね、ＡＩ時代っていう言葉がありました。
その他にも、今日の情勢を表すような、何とかの時代っていうのは、たくさんあるかと思います。
ポストトゥルースの時代みたいな、ポスト真実ね、もう真実が何だかわからない。
偽情報だらけで、動画も作られる、ＳＮＳで根拠のない情報がいっぱい拡散されて、どれが本当の事実だかわからない。
それをポスト真実の時代って言われますね。
選挙などにも影響をおよぼしていて、大変大きな民主主義の危機と言われています。
様々な時代の中で、私たちは今人権ということを、今日考えるわけですね。
時代状況とか、歴史性、文脈ってのは、やはり無視はできないと思います。
私はその中で今日切り取りたい文脈は、民主主義という点です。

民主主義の危機。
民主主義が崩壊するんじゃないか。
或いは、分断がどんどん加速してしまっている。それは、何も欧米のことばっかりじゃない。日本でもそうではないのか、そういう問題意識のもと、時代をとらえてみたいと思います。
さあ、改めてですが、民主主義とは何でしょうか。
私、大学で、道徳教育っていうのも教えています。
そこで正義とか善とか、平等とか公平ってのは一体何なのかっていうのを教えてます。
その中で教える大切な価値の 1 つが、民主主義ですね。
学生に民主主義とは何かと聞いたら、やっぱり基本は、多数決ですっていうふうに答えたり、実感として、或いは学校で実践してきたんですね。民主主義とは多数決なのでしょうか。
ある種多数決かもしれないが、そうだとしたら、例えば障がい者や被差別部落の人たちの権利っていうのは、一生、ずっと保証されないですよね。だって多数じゃないんだから。どうでもいいんだから。多数からしたら、どうでもいいって思えちゃうから。セクシュアルマイノリティのことは知らねえよって言う人が多数なんだから。
それが民主主義なんだろうかってことですね。
持ってきたのは河野哲也さんという、哲学者の文章、ちょっと長いですが、最初に引用しました。
それを一緒に読んでみましょう。
『(民主主義を、合理性を特権化することによって基礎づけようとする）討議主義的な考え方では、人々との間に合意が得られて、それをもとにして、法を定めることが想定されている。しかし、民主主義にとって真に大切なことは、合意が得られなくとも、社会が分裂しない市民的な紐帯が存在していることである。あるいは、これまで傍流として無視されてきた人びとの声を、討議の場へと持ち込むメカニズムが存在しているということである。』
続けますね。
『民主主義にとって、討議が合理的になされるということではなくて、』次が大切ですが、『異質で対立している人びとのあいだにもなお、市民的な紐帯が存在しているということが重要なのである。』
シャンタル・ムフっていう政治哲学者がいますが、シャンタル・ムフによれば、この市民的な紐帯の弱まりこそが、排他的な宗教集団や利益集団、民族原理主義といった不健全な集団を生み出す原因である。
この本は 2011 年に書かれたものです。
15 年前の話ですが、すでに今日のことを予期しているようにも読めますね。
民主主義というのは、合意を得る、合意を特権化しない、合意が大事だとしない。
卑近な例で言えば、今日クラスでラーメンを食べに行くか、寿司を食べに行くか、この合意を得られない。
でも、寿司派もラーメン派も同じクラスメイトであるという繋がりですね、紐帯、それは切

れない。
あの人は反対意見だ。でも、同じクラスメイトだ。
あの人は、これについて私と違う意見を持っている。でも同じ倉吉市民だ、同じ倉吉市に住んでるし生活しているんだから。その市民的な繋がりが切れないこと、これが民主主義にとって最も肝要なのだ、こう言ってるわけですね。
合意を特権化しない。
みんなが１つになったら、それは全体主義国家になって、民主主義の逆ですから。
さあ、次の引用です。
『ムフは、哲学者のリチャード・ローティの意見に共鳴しながら、民主主義的な行動にとって必要なのは、公平無私の合理性や普遍妥当性といった観念ではなくて、「他者との共同の範囲を拡大して、より多くの人々を包括する社会」、これは包摂という、インクルージョンっていう訳語の方が良いかもしれないですね。『人々を包括する社会を作ろうと説得する実践であり、そういう実際的な措置なのである。ローティにとって、民主主義が進歩するのは、合理性とか普遍主義的道徳論によってではなく、センチメント（感情）や共感によってなのだ」と述べる。』。
そっちか、みたいなところありますよね。
理詰めで合理的に合意を得てというよりも、そこも大切なんだが、そこが絶対なくてはならないと思うけども、肝要なのは、或いは人つなぐのは感情や共感によってなのだとあります。
今日は、ここをちょっと深めていきたいわけですね。
続き、最後読みます。
『民主主義の美点は合意を形成することにあるのではない。そうであるなら、公民的協和主義のように、同質性を強要する危険性が生じてしまう。』みんなこうじゃなければいけない、僕は日本の学校に行ったことないですけど、日本の学校のクラスって、ほんのりそんなところありますよね。
先生たちがいたら申し訳ないけど、教員の王国みたいになるって言われています。
私の王国にこどもたちを従えさせている、どうしてもそうなっちゃう、権力が作用するから。
そうじゃないわけですね、同質性を強要する危険が、市民社会にも起こってはならない。
『むしろ、民主主義の特徴は、対立が維持され続けることにある。』、一掃しない、反対派を根こそぎ消さない。
『そこでは、合意は特権化されずに、対立と差異が正当なものとして認められ、権威主義的な秩序を作って、対立を無理に除去されたりしない。異議や対立する諸価値が併存し、それが決して終息しない多元性を維持し続ける』、ラーメン食べたい、寿司だ、カレーだ、いろんな意見あって、「いいや牛骨ラーメンこそ最強なのだ」とならない。いろんな意見が、諸価値がともにあること、『それが決して終息しない多元性を維持し続けることが民主主義の本質なのである。政治的な討議のテーマは、ベンハビブの言う「すべての人に共通の利益」へと収束していく必要はないのだ。』。

ちょっと難しいですが、ポイントはやはり、これから皆さんも分科会で議論したり、或いは分科会の議論だけじゃなく、永遠に人権や政治と関わる話、教育と関わる話ってのはあるんだけれども、その際にも覚えておきたい言葉、皆さんにぜひ紹介しておきたい。
民主主義っていうのは、意見が対立しても紐帯が切れない。
それが危機に陥ってるってことは、今その逆が起こってるってことですね。
紐帯が切れている。
分断しているってことです。
「あいつは違う意見なんだから敵だ」って、こうなっちゃう。
赤か青か、アメリカの大統領選挙の画が浮かびますけど、「この州は赤だ。じゃあ敵だ。」と、「この州は青だ。じゃあ敵だ。」と、こうならない。
それが民主主義社会を維持し、築き、発展させていく上で、根本的に大切なことだという指摘でした。もうちょっとだけ行きます。ここを押さえておかないと、何のために話をしてるか忘れてしまうからです。
人権っていうのは、民主主義社会を維持していくため、発展させていくために必要だからあるんです。そもそも、その民主主義社会って何なのかを押さえておかなければ、話が空転してしまいます。
それでは、次です。
これも似たような論理ですが、前にも書いたようにケアの倫理っていうのが、最近はとても大切なものとされています。
ケア、気づかいとか、心配りとか。「ケアの多文化化」「高齢者のケア」とかも言われますが、そのケアっていうのは無視されてきました。
合意を形成する議会とか、その公の場に登場するのは基本、男性が考えられていて、でもその合意を形成する男性っていうのは、生活を様々な人に支えられています。ご飯とか、洗濯、風呂、掃除とか、いろんなものを支えられて、その合意討議の場に出てきてるわけですね。でも、その背景にあるケアっていうのは無視されてきました。
つまり、自立した強い個人同士が、合理的な議論と合意を経て社会を形づくっていく、こういう社会のありようっていうビジョンの再考が迫られているわけですね。本当にこれでいいんだろうか、いや、そうじゃなくて、いろんな人々のケアに支えられて、社会ができている。つまり強くないわけです。
障害学を研究している熊谷晋一郎さんという方が、自立という言葉について、これ障がい者運動の中でとても大切な概念として考えられて、大切にされてきた概念ですけど、この自立っていうのは、何かこう、すくっと 1 人で立っているみたいなイメージがあるかもしれません。「あなたもそろそろ自立しなさいよ、20 歳なんだから」みたいなときの自立っていうのは、これは自分で稼げて食えてみたいな、身の回りのことができてみたいな、そういうイメージが入るかもしれません。1 人ですくっと立っているっていう。
でも熊谷晋一郎さんが言ったのは、自立っていうのは、どれだけ依存先が多いのか、依拠で

きる先が多いのか。
つまり、1人で立っているんじゃなくて、いろんなものに支えられて、私たちは立っているんですね。
倒れずにいるのは、何かに支えられているから。でもこれは、マジョリティには見えないわけです。
彼が例に出したのは、彼は車椅子ユーザーなんですけど、例えば災害が起こったときにエレベーターが止まっちゃうと、高階層にいるともう逃げられないわけですね。
でも、僕のように歩ける人は、階段という建物に依拠して逃げることができます。
つまり、僕らの安全は階段に支えられてるわけですね。
いろんなことに依拠できること。これがつまり、依存先が多い。
これが、自立してる状態なんだっていうんです。なんか逆のようなことだけど、依存先があればあるほど、その人は自立できる、依存先をふやすこと、これが障がい者には求められるって、こういうことを言ってるんです。
まさにそうで、誰だってそんな強い個人なわけじゃない。
だから、ケアの倫理が主張するように、脆弱性を支えた個々人が互いに気を配り世話をしながら、関係を築いていく、そういう社会のビジョンこそが大事なのではないか、これが今政治哲学の中でとても大切な議論として出てきています。
強い自立した個ではなく、依存先を、関係を築きながら、強くなくて別にいいわけですね。
脆弱性、バルーナビリティを抱えながら、それでも互いに関係を築いていくような、そういう社会のビジョンじゃなきゃいけないんじゃないかっていうことです。
さあ、次です。
まさにこの分断と関わって、哲学者の朱喜哲さんがおっしゃっていた言葉を最後に持ってきました。
相手を黙らせる「論破」ではなく、ともにあろうとする工夫すなわち「会話」を止めない。
これを朱喜哲さんが、最近いろんなところで主張されています。
ＮＨＫの番組とか、本をお読みになった方もいらっしゃるかもしれません。
朝日新聞などでも取り上げられてますね。
論破っていうのは、まさに関係を遮断する、相手を黙らせるという意味で、民主主義の真逆に値する行為ですよね。もう黙らせるわけですから。ストップさせる、議論を中止する、止める。
歴史否定論者、最近は歴史修正主義という言葉を使いません、歴史否定と。revisionism（リビジョニズム）ではなく denay（ディナイ）。否定っていう方が使われますが、歴史否定の場合でもこの論破っていうのはよく使われます。議論する気がない。
そうじゃなくて、会話こそ大事じゃないかって言います。
会話か。対話じゃないのかって思いますよね。
対話は英語で dialogue（ダイアローグ）です。「di：２つ」の「logue：言語」を介したもの

という語源だそうです。
これに対して、conversation（カンバセーション）、会話というのは、「ともにいる」ぐらいの意味だそうです。
話す必要も別にない。ともにいること、あること、そこにいること。
皆さんもそういう経験があるかと思います。なんかすごい楽しい飲み会だったけど、何しゃべったか何にも覚えてない。お酒のせいとかじゃなくて、何にも覚えてない。でも、とても幸せな時間だった。その人と、その人たちと一緒にいたこと。そういう感じなのかなって僕は思ってます。
ともにいようとするとか、ともに時間を過ごす、場をともにする、そういう工夫を止めないこと。その工夫を諦めないこと、これが民主主義的な関係を築いていく上で大切になるんじゃないかって思います。
そういう民主主義が破壊されそうになっている。もうそんな関係はつくれない、そんな時代の中で、私たちは人権について考えます。というか、そういう時代だからこそ、人権について考えなければならないと考えます。
それでは、内容に入っていきましょう。
レジュメの２ページ目に行きます。
１．人権とはです。改めて人権とはと言われると、すべての人が持つ権利、ヒューマンライツ、数えられるもの。right じゃなくて rights なので複数あるわけですね。いろんな人権が私たちにはあるし、それをどんどん増やしていったわけですね。
人権とは、すべての人が有する権利です。これは近代の要件とされています。
近代の要件、つまり近代であるならば人権がある。人権がないならば、近代ではない。
こういう、ちょっと強い言明ですが、そう言われることがあります。
近代の要件、つまり歴史的に近代以降の社会には人権という概念があります。それ以前にはないっていうことですね。
だって、すべての人にあるのが人権なんですから。
近代より前の身分制社会では、王がいて、貴族がいて、平民がいて、奴隷とかがいて。
王が「あいつを殺せ」と言ったら殺せるわけですよね。斬首、スパーンとできる。
これ、人権なんて成り立たないわけです。
人権なんていうものが成り立たない、ピラミッドのような社会の仕組みになっていたから。
ピラミッドの上の人たちだけが学校に通っていたし、文字を操るとか、いろんな知識を支配し。
ピラミッドの下側の人たちが、その命を軽んじられるような仕組みが社会に刻み込まれていたので、近代より前は人権という概念がありません。
よくも悪くもこういうピラミッド型の社会ではなくて、すべての人々が国民として、この社会の主権者たろうっていう社会に変わりました。
王様ではない。神に権利を与えられた国民一人ひとりが、この社会の主人公なのだとなって

からは、建前上すべての人の命は平等ですよね。
だから人権という概念が初めて成り立ちます。
僕が誰かを「殺せ」って言ったって殺せはしない、殺してはいけない。少なくもそういう建前がある。だから、人権は近代以降の要件だってされるわけですね。人権という概念の基盤には、生命尊重の思想すなわち、あなたと私の命は同じように大切だという考えがあります。それがなければ、人権っていうのは成り立ちません。
こういう概念として、人権はできてきました。
この否定が、人権侵害ですね。あなたと私の命は同じように大切「ではない」とする制度、行為、様々なものがありますが、それを人権侵害といえるでしょう。
人権は肉体的な生命、社会的存在としての生命に関わります。
いずれもが尊重され、人としての尊厳が保障されなければなりません。
そういう社会を作っていかなければならない。
さあ、この人権っていうのは民主主義社会を築いていく、それから、絶えず改善していく上での指針になるものです。これが、あらゆる人の生が平等に尊重されているのか、どの人の生が尊厳ある生として、この社会の仕組みとして、保障されていないのか。そういうことを確認していく上で、この人権という概念はとてもよい物差しのようなものになるかと思います。
人々の生、或いはライフですね、生命、生活、生涯、個々人の尊厳ある生が保障されているか、或いは生が尊重される社会となっているか。
私たちが関知しえないような様々な問題があります。
誰も取り上げてない様々な問題があって、そこには、すぐさまたどり着けないけれども、それにおいても、その人の生が尊重されてるかどうかを確認するための物差しとして、人権は使えるのではないかというふうに思います。
「みんな同じ人間だ」論の完成。落とし穴ですね。
僕が大学で、障がい者とか被差別部落、性的マイノリティの授業をすると、何で同じ人間なのに差別をするのかわからないという、とても素朴で、おそらく間違っていない感想を書いてくる学生が少なくありません。
ヘイトスピーチの授業をしたときも、なぜ同じ人間なのに、ごみ扱いとか、虫にたとえて虐殺を示唆したりするんですけど、するのかわからないというふうに述べる学生がいます。
これは半分、僕いいと思うんですけど。半分危ないなって思っています。
なんかあんまり、これ僕いまだにうまく図示できないんですけど、こう、まるっと人間をとらえなければならないと思うんです。
差別されてるときとか、同じ部分、この土台になるような部分を強調するのはとても大切だし、正しい戦い方だと思います。
平等に保障されなければいけない。
この生が保障されてないから、彼・彼女らは、感覚でやっぱり間違ってない。同じ生が等し

く尊重されていないことの問題を言うわけです。だから、同じ人間なのにおかしいっていうのはまさに正しい議論だと思う。
でも、一方でそれは、私が外国人であるからこそ、私が被差別部落出身者だから、私が性的マイノリティだから、私が障がい者だから生きてきた歴史とか経験を、無化する言葉にもなりうる、「同じ人間なんだから」でまとめてしまうとですね。
いやいや、私、「同じ人間だから」って、まとめられたくないですってことです。
私は、在日朝鮮人として朝鮮籍の人として、1984 年に生まれてから、絶対に日本国籍の人と異なる人生を生きてきたと思っていますし、絶対経験が異なります。例えば障がい者にとってもそうだよね。目が見えない人に「同じ人間なんだから一緒に楽しみましょうよ」みたいな。絶対違うわけです。そっちを無視してもならないから、同じ部分と違う部分っていうのを、両方まるっととらえて、議論したり話したりしなければならないと思うんです。
これがなかなかできない。
同じ部分を強調しすぎて違いをないことにするのでもなく、違いを強調しすぎて同じ人であることを忘れてもならない。違いを強調しすぎて「あいつらは人間じゃない」。だから、戦争できるわけですね。人間だと思ってないわけです。
僕より 10 歳上ぐらいの、大学院のときの先輩は韓国人だったんですけど、本当に朝鮮民主主義人民共和国の人には角が生えているっていうふうに習ってたって、笑いながら話してくれました。
鬼だから殺せるんですよ。人間じゃないから。今戦争が起こってるとこもそうですよね。
人だと思ってない。違いを強調しすぎて。
それもよくないので、両方いいバランスで調整、いい具合に見なきゃいけないわけです。
私たちは同じで異なる。両側面に目を向けた上で、生命の尊重、尊厳ある生を保障する社会の仕組みを整えていかなければならない。そのために、人権という物差しがある。これを押さえておきたいと思います。
この人権が最も際立つ、或いは、人権が侵害されやすいのが、歴史的、社会的に排除されてきたマイノリティの人たちだと言えるかと思います。
さあ、レジュメに「差別」と書きました。
差別っていうのは、個人レベルのものと、構造のレベルのものがあると思います。
例えば個人レベルのもの、偏見に基づく行動ですね。これを差別っていうふうに心理学的には定義するそうです。偏見に基づく行動、これが差別ですね。
でも、それだけじゃないですよね。
例えば昨日の、僕が 1 年間準備してきた集会っていうのは、公立学校で働く外国籍教員たちの全国の繋がりを作るっていう集会でした。本当にいろんな地域から 100 人ぐらい集まってくれました。
外国籍の人が公立学校で教員になれるかどうか皆さん知っていますか。
皆さんの通った公立学校にいましたか。私たちの研究では、今大体 580 人ぐらいいるって

いうふうに推計されています。
で、公立学校で働いてる外国籍の先生は「教諭」にはなれないんですね。
採用の職が、一般的には教諭なんですけど、外国籍だとなれない。任用の期限を付さない常勤講師っていう、給料は2級で教諭と一緒なんですけど。
ずっと「講師」という職です。なので、3級とか4級、もちろん管理職にもなれない。こういう問題があります。でも、そういう外国籍教員が働いてる大阪市の校長先生に話を聞くと、「そういうことがあってはならないです。李先生はとても優秀で優しい先生です。」とか言うわけです。だから、そこで働いてる先生たちに、悪人は誰もいないんですよ。みんな優しい人です。
でも、システムとして李先生を排除してるわけです。善意とか人の思いやりとか、そんなものとは別次元で差別ってのは全然あるわけです。
これを忘れて、なぜか差別を解消するときに、急に思いやりの話でどうにかしようとする。なるわけないじゃないですか。思いやりでどうにかなるんだったらもう終わってる。私のおじいちゃんの代も、ずっと、もう100年ぐらい続いているわけですよね。
どうにかなるわけない。刻まれてるわけです。
もう1回レジュメをご覧ください。
偏見に基づく行動、個人レベルのものと、そうではなくて、法律や慣習に埋め込まれた差別、「女の子はこうしなさい、こうするのが女の子っぽいでしょ」。法律にも、どこにも書かれてないのに、なぜか地域の空気としてそれがある。そういう、構造レベルのものがあるわけです。
もちろん、個々人の思いやりでどうにかなる面もあるでしょう。でも、決してそうではないものもたくさんあるってことを、忘れてはなりません。
両者は相互に関係しあいます。
個人や心理の次元に回収・矮小化してしまわないことが重要です。差別について考えるとき、どうか個人とか心の問題だけに収めないでください。すると、さっき言ったような制度的な差別というのが見えなくなってしまうからですね。
ＳＮＳにたくさん書かれている心ないヘイトスピーチは、大変深刻な問題としてあるでしょう。
しかし、それを言うことによって何か、法律的に刻まれてるとか制度に埋め込まれてる。男性・女性もあるし、慣習にもある。甲子園に女性が云々、土俵に女性があがれないとかもそうだし、いろんなものに埋め込まれた、すでに埋め込まれている差別っていうのを忘れてしまうので、個人の問題だけに回収しないようにしましょう。
さあ、マイノリティっていうのは、そういう問題を示してくれている、気づかせてくれる、こんな材料みたいな扱いは本当に失礼ですけど、存在でもあります。
マイノリティとは、「社会的」少数者と言えます。「社会的」なので、量の問題ではない。
とりわけ近代以降、例えば、国家が国民に課す義務を十分に果たせない。納税、労働、教育、

徴兵。徴兵と納税が最も国家にとって大切かもしれません。国のために金を納め、国のために死んでくれる、そうできない人たちですね。
それが、マイノリティというふうにされ、排除されてきました。
国民国家のものさし、基準や指標に基づき、役に立たない、危険、汚い、劣っている非文明的、異常などとみなされてきた人々のことを、マイノリティとここでは言っておきましょう。つまり、近代国民国家にとって有用ではないとか、不要である、むしろ危険であると思われる、そのように扱われてきた人々のことです。
彼・彼女らは治療や隠蔽や抹殺の対象となってきました。
治療、例えば、同性愛は治せるものだとして、これはもう 1900 年代にもありましたけど、同性が好きな人に対して異性の裸の写真をパシャパシャと見せて、電気ショックを与えるみたいなことであったりとか、隠蔽ですね、社会から隔離する。例えばハンセン病の患者たちを社会から完全に遮断して、圧倒的人権侵害をする。或いは、抹殺、この社会から追放する、国から退去を強制したりとか、或いは、ナチスドイツにおけるユダヤ人のように、ジェノサイド、殺してしまう、そういう対象となってきた人々です。
例えば、日本では被差別部落出身者や、障がい者や、外国人、性的少数者ということを挙げることができるでしょう。
このマイノリティたちは、様々な生命の危機にさらされて生きています。
近年のものといっても 15 年前ぐらいのものも含まれていますが、京都の朝鮮学校が、レイシスト集団によって襲撃される事件であったりとか、こども 100 人ぐらいいました。これも 3 回行われてるわけですが、或いは、私の出身の大学ですが、セクシュアルマイノリティの子が、自身のセクシュアリティを同意なく暴露されること、アウティングを受けて、マーキュリータワーというところから落ちて亡くなっています。また、今年で 10 年になりましたが、障がい者施設殺傷事件。19 人の方が殺害されました。
或いは、ウトロっていう京都府宇治市にある在日コリアンの集住地域ですが、そこにも、灰燼に帰そうというか、在日コリアンの知り合いも何もいない、21 歳の若者が火を放ちました。そういうヘイトクライム、実際の犯罪の対象にもなる人々です。
定義上、このマイノリティの反対語をマジョリティと言います。社会的多数者です。
これはコインの表と裏。数学で「マイナスの数字」を定義するときに、「プラスではない数字」ですって定義するんですけど、それと同じように、マジョリティっていうのはマイノリティとの関係の中で、規定される人々、概念ですね。一応私はこのように書いてみました。
マイノリティが直面する不利益や生きづらさを気にしないでいられる人々、マイノリティの生、ライフに関わる問題が、自分には何ら関係のない問題だと思える人々です。
誰だって、マジョリティ的ポジションにいますよね。
私は男だし、シスジェンダーだし、障がいが差し当たりないし。外国籍者であるという意味ではマイノリティだけれども、圧倒的強者でもあるわけです。
男性で、健常者である私は、女性が直面せざるをえない問題を常に考えたりできないわけで

すね。気にしないでいることができる、それを選択することができる、そういう選択肢がある人たちをマジョリティというふうに置いておきましょう。
両者の間には、非対称性、立場を入れ替えられないことがあります。
すなわち、マジョリティはマイノリティを無視して生きていけるが、マイノリティはそうはいかない。マジョリティを無視して生きてはいけません。
社会が基本的にはマジョリティを想定して設計されているからです。
私が教えた学生にトランスジェンダーの学生がいました。
トランスジェンダーなので、生まれたときに、あなたはこの性で生きていきなさいって、皆さん、医者に割り振られると思うんですけど、その性で生きていくことが苦痛な人々ですね。「あなた女性として生きていきなさい」、生まれた瞬間、「はい、元気な女の子ですよ」って言われた性で生きていくことが、辛い人々ですね。耐えられない。
私のゼミにも１人いまして、女性の体で女性として生きていけって言われて、いやそれはちょっと不可能ですっていう子がいました。
その子が、「レポートを書くのも大変なんです」って言ってて、どういうことかと聞くと、その一人称がですね、「彼／彼女」もそうなんだけど、なんか男性か女性かしかないじゃないですか。
「私」って書いたら、ちょっとやっぱり女性的ニュアンスがあってしまう。「僕」と書いたら、男性的ニュアンスが入ってしまう。
でも、レポートで自分の意見を書くときってありますよね。
そのときの文章をどうすればいいのかがわからなくて、何て言うんでしょう、多分僕はそこに困らないんですけど、その子はそこで時間を食うわけですね。文章を変えて「私」が出ないような文章をしなきゃ、みたいな。なんかそういう工夫をいちいちしてるって言ってたんです。
つまり言葉が、トランスジェンダーとか或いはエックスジェンダー、男性とか女性にとらわれたくない、納めたくないっていう人を想定して作られてないから、文章一つひとつ書くのも大変だったわけです。言葉が、そのように設計されてるってことですね、さっき階段の話もしました。いろんなことがあります。
そのトランスジェンダーの学生の話はいっぱいあるんだけど、選挙に行くと、男か女かにマルをしなきゃいけないと。それで「男」にマルをしたのかな。すると、係の人に勝手にマルを消されて「女」の方にマルをされる、みたいな。なんか社会が、そうした人たちを想定して設計されていません。
目が見える人を想定して「餃子のタレはここだよ」って設計されてるわけですね。本当、僕も目が見えない人と餃子を食べに行って、初めて気づくようなことがたくさんあると思うんですけど。
みんなが日本語をしゃべるってことを想定して、今私もこうしてしゃべってしまっていますが、そういうふうな。社会は基本的にはマジョリティを想定して設計されているので、マ

イノリティは、「マジョリティなんか気にしない」なんていうふうには生きてはいけないわけです。そういう意味で、圧倒的な非対称性が両者にはあります。
差別がすごくわかりやすく顕現しやすいのがマイノリティです。
この差別、先ほど個人レベルだけではなくて、構造のレベルでとらえなければならないと申し上げましたが、それをよく考えさせてくれるのが、「障がいの社会モデル」という考え方です。聞かれたことがある人も多いかと思います。
「障がいの社会モデル」っていうのは、多分、意味がわかってなくても、皆さんが自然に使ってる言葉ですね。バリアフリー。
バリアフリーっていうのは、バリアをなくす、障壁をなくすっていうほうなので、社会モデルの考えにすでに依拠してるわけです。
社会モデルの逆の言葉を、「障がいの個人モデル」とか、「医学モデル」っていうふうに言います。
先ほど紹介した、自立とは依存先を増やすことって言った、熊谷晋一郎さんの言葉でわかりやすいのがあったので持ってきました。
「障がいというのは、皮膚の内側ではなく、外側にあるのだ」これが障がいの社会モデルという主張です。
「障がいってどこにあるんですか」って聞いたときに、中にあるんじゃなくて皮膚の外、私と、何かとの関係の間にあると。私と建物の間に障がいがある、こう考えるわけです。
足が動かない私の中に、目が見えない私の中に障がいがあるんじゃなくて、外側に障がいがあるんだと、こういう考え方ですね。
例えば、階段を登れない私の体に障がいが宿っているのではなく、エレベーターがない建物という社会環境の中に障がいが宿っているのであり、私たちの暮らしを妨げていることに気づかせてくれたのです。こうした障がいのとらえ方を、社会モデルと呼びます。
これに対して、障がいを皮膚の内側にあるとみなす考え方を、医学モデルと呼びます。
さあ、障がいの社会モデルによれば、障がいは体の外、つまり社会の側にあるので、社会が作っているその障壁、すなわちバリアを除去していくこと、改善していくことが障がい問題の核心になる。
だから障がいの「がい」をひらがなにしたところで、問題の解決には何もなりません。
思いやりとかそういう問題ではないんだから。社会にあるそのバリアを消し去っていく。改善していく。合理的に調整していく。
これが、それこそ障害者差別解消法とかに求められているものですね。障害者権利条約もそうです。
この考え方っていうのは、すべてのマイノリティに対して応用できるんじゃないかっていうふうに思っています。
障がいは皮膚の中にあるのか、外にあるのかという問題を、交通事故の例で、これはインターセクショナリティっていうのを示してる図ですが、持ってきてみました。

例えば、この交差点でよく事故が起こるとしましょう。
個人モデルで考えるときは、この運転手が悪いんだろう、何か乱暴な運転をしたりとか、速度を守らなかったりとか、そう考えるわけですね。だからこの個人に教育を施したり再研修したり、この人の免許を停止させたりとか、対策もこの個人に向かうと。
でもよく考えると、この道路はめちゃめちゃ危険ですよね。速度表示もないし、信号もないし、横断歩道もない。こんなところで事故が起こるのは必然なわけです。
もっと立体化して、事故が起きないようにするとか、いろんな手段が道路の側に考えられるわけです。
しかし私たちは差別の問題を考えるとき、さっき個人の問題に帰してしまうと言いましたが、よくこの運転手の問題にしちゃう。悪い人が差別をするし、良い人としてありたい自分は、差別などするはずがないと思っちゃう。
でも、そもそもあなたがどんな人かは関係なくて、この道路自体が、誰かだけが事故に遭いやすいような設計になっている場合があります。「つくり」の問題を放置してはならない。
これがさっき申し上げた、差別の構造性をとらえるっていうことです。
なぜ障がい者だけ、なぜ女性だけ、なぜ外国人だけ、それが露骨に表れてるのがこのマイノリティの問題なわけです。
このように、特定の属性を持った人にだけ不利に社会が設計されているということ、もう少し私の中のイメージを出してみると、このように社会はでこぼこになっていると、言い換えることができます。
例えば、外国籍者の場合は不利な立場にいるかもしれない。参政権がないとか、最近定住要件がめちゃめちゃ厳しくなってとか。
一方ではこうだけども、男性である私は有利な立場にいるわけですから、もっとでこぼこの球体みたいに描かなきゃいけないですね。
何か 1 指標で、例えば性別とか、障がいとか、出身地とか、国籍とか、エスニスティとか、そういうズバって切ったときに、このような図で一旦説明できるということです。
マジョリティは、マイノリティがマイノリティとして観測すること、経験することを、自分にとってはどうでもいいことだって思ってしまっていますと言いましたが、私たちは、みんなが同じ地平の上に立って「用意、ドン」と競争してるんだよって、勘違いをしてしまいます。
それが多分マジョリティである所以というか、マジョリティはそういうものだと。
でも実はマイノリティは、すでにスタート地点でゼロにいないと、社会構造とか制度、慣習、設計によってすでに同じ地平に立っていない。このでこぼこをできるだけ上に上げる、平らにしていくこと。
これが、差別を解消していく、よりよい社会を築いていく上で必要になってくるのかと思います。
こういう措置を、積極的差別是正措置、アメリカではアファーマティブ・アクション、イギ

リスではポジティブ・アクションと言ったりしますね。
それが、逆に今は「優遇だ」「なんで女だけ」「なんで外国人だけ」みたいに言われてますが、そういう不平不満が出るのも、自分と同じ有利な立場にいると思っちゃってるからですね。私たちマジョリティは見えていないので、不利な立場からゼロへのプラス分が、ゼロから有利な立場へのプラス分だっていうふうに勘違いしてしまうわけです。
それによって、アファーマティブ・アクションに対して、不当だっていうふうに、逆に反発するってことが起きてしまいます。
マイノリティの人権侵害は、様々な思想と紐づきながら展開してきました。
人種主義。「人種」なんてものはない。虚構、フィクションです。けれども私たちはあると思って、白人とか黒人とか言っています。
人種主義であったり、まさに日本の植民地支配とも関わりますが、帝国による植民地の支配を正当化する植民地主義、それから歴史否定、能力主義、優生思想、家父長制、性別二元論など、様々な思想が絡まり合いながら、マイノリティの人権は侵害されてきました。
先ほども申し上げた優生思想に関わるものとして、相模原の障がい者施設殺傷事件の、ごめんなさい、苦しい記事です。
そこで熊谷晋一郎さんがインタビューされてるものですね。障がい者のままで生きていくという流れが、一瞬にして失われるのではないかという危機感を覚えたっていう。
彼のインタビューと、それから、ハンセン病の無らい県運動ですね。
藤田省三っていう思想家がいるんですけど、その人が言っていた大切なことは、「根こそぎ」っていう言葉を使いがちだと。「撲滅」とかですね。
本当に綺麗さっぱりなくすっていうことを、こういう人権侵害、マイノリティを社会から根絶せよ、ユダヤ人のときもそういう言葉が使われましたし、「障がい者がこの世にいらない」みたいな、本当に恐ろしい言葉ですけど、そういうのと絡まり合いながら、マイノリティの人権侵害というのは行われてきました。
今日の例は、すでに皆さんにも言うまでもなく、たくさんご存じのことと思います。
まさにその生が尊重されていない。
私たち自身が生を尊重していない側、マジョリティ側とも言えるかもしれないが、そういう事態をどうやって改善していけるだろうか。
個人的な偏見ももちろんあるし、それだけではなく、制度や慣習に埋め込まれてきた差別や人権侵害を、私たちはどのように、克服して改善していけるのでしょうか。
次はこれについて考えたいと思います。
「無知の克服と深い共感」と書きました。僕自身もやっぱり、42 歳になる年で、知らないことだらけです。やっぱり、生きててずっと学ぶ他ないと。
昨日も外国籍教員の集まりをしたときに半分ぐらい日本人だったんですけど、教育学部で教えてる大学の先生もいて、「いや知らなかったです」とね。
だから、知らせていくことが大切です。

ひょっとしたら皆さんもいろんな集会で、そういう言葉を言ったり聞いたりしたことがあるかもしれません。
知らせることが大切。間違いないんですよね。
でも人って、無限に知らなきゃいけないことがあって、どうやって知っていけばいいんだろうとか、どうやって知らせていけばいいんだろうっていうのを、本当ずっと、昨日も今日も、今までもずっとこれからも悩んでいます。
さあ、「無知」っていうのは一体どういうことなのかを少し、先達の言葉を通して深めていきたいと思います。
ユダヤ人で、アウシュビッツ強制収容所から生き残ったプリーモ・レーヴィという人が、「無知」を「意図的な怠慢」っていうふうに表現をしています。
さあ、どういうことなのかですね。
ドイツでユダヤ人がたくさん殺されてる。ひどい扱いをされてる。
これを「生かし続ける権力」って言われることもありますが、もう人としての尊厳とか尊重が全くない状態で、生かされ続けるのが強制収容所ですね。
もちろん殺されもする、そこに同性愛者もいました。
戦後世代の若者が「そのことを、ドイツ国民は知らなかったんですか」って、プリーモ・レーヴィに聞くことがあります。
日本でも同じですね。「私、戦後世代なんで、戦争の責任とか関係ないです」みたいな若者、今めちゃくちゃいますし。「歴史なんか知らないです、どうでもいいです」みたいな。
それに対して、レーヴィが返した言葉です。『情報を得る可能性が幾つもあったのに、それでも大多数のドイツ人は知らなかった。それは知りたくなかったから。無知のままでいたいと望んだからだ。国家が行使してくるテロリズムは確かに抵抗不可能なほど強力な武器だ。だが全体的に見て、ドイツ国民が全く抵抗を試みなかったというのは事実だ。ヒトラーのドイツには特殊なたしなみが広まっていた。「知ってるものは語らず、知らないものは質問をせず、質問されても答えない」というたしなみだ。こうして、一般のドイツ市民は「無知」に安住し、その上に殻をかぶせた。ナチズムへの同意に対する無罪証明に、無知を用いたのだ。』ナチズムへの同意に対する無罪照明、「私は同意なんてしてませんよ。知らなかったんです。」とね。
『目、耳、口を閉じて、目の前で何が起ころうと知ったことではない。だから自分は共犯ではないという幻想を作り上げたのだ。知り、知らせることは、ナチズムから距離を取る１つの方法だった。ドイツ国民は全体的に見て、そうしようとしなかった。この考え抜かれた意図的な怠慢こそ、犯罪行為だと私は考える。』
無知ということに逃げる。私たちは、知らなきゃいけないことがたくさんあるっていうのを知ってるけども、知りませんでした。
高速道路で家庭用のごみをバーンと捨てて、いや知りませんでしたって馬鹿なふりをするみたいな、なんかそういうことをやってしまう自分の無罪証明に「無知」を用いる。それは

ただの怠慢じゃなくて、徹底的に、わざとやってるでしょ。
あなたは、自分が共犯じゃないと言いたいから、わざと考え抜かれた、意図的な怠慢だろうと指摘していて、おそらく若者に対しても、そうはならないで欲しいという、まさにアウシュビッツの生き残りだからこそのメッセージだと思うんですね。
翻って、今日本で暮らしている私たちは、そうなっていないだろうかっていうのは、やはり問い続けなければならない。知らなければならない知識を、思いを、知らなければならない。
一方、知るだけでいいんですかっていうことも、また別の先達がおっしゃっています。
この方は徐京植さんっていう方で、東京経済大学で人権論を教えていました。徐兄弟としても有名ですね。彼は、いろんな大学で講義をして学生たちのコメントを見るにつれ、「知識だけあってもだめじゃないか」みたいなことを言います。
読みます。『学生たちの感想に共通する前提として、事実に対する圧倒的な無知があることを明記しておかなければならない。しかし、ここではそのことを、さらに分析的に見ていきたい。なぜなら、日本人とアジア人と隔てる断絶の原因を、もっぱら無知のみに求め、歴史の事実を知りさえすれば、断絶は克服されるだろうというような単純な楽観論は戒めなければならないと考えるからである。現実には微に入り細にわたる歴史的知識を備えた帝国主義礼賛者や差別者が存在し』だから、知識がある差別主義者がいるわけですよね。
部落差別について知っていて、それをむしろ差別に利用してくる人が多くいるわけです。
朝鮮人に対してもそうですね。
帝国主義礼賛者や差別者が存在し、他方には、ほとんど具体的な知識を持ち合わせないままに、被害者の苦悩に深く共感することのできる人々が、残念だけど数は多くはないが、確かに存在するわけです。
知識はそんなにないけど、それでも、被差別者の苦悩に共感できる人もまたいると。
これはどっちかが大事じゃなくて、どっちも大事なんやろうなっていうふうに、僕は最近思っています。
もう一つ、「知」と感情とか共感っていうのを繋いでいる、上原専禄という方の言葉を紹介したいと思います。
上原専禄は戦後を代表する知識人の１人で、ヨーロッパ史が専門の方ですね。一橋大学をつくった人でもあるんですけど、彼の言葉。
前に紹介したプリーモ・レーヴィと、徐京植さんの話と共鳴する部分があるので紹介したいと思います。
『現代日本の歴史的・政治的問題状況の全体についてはもとより、一つひとつの問題点についても、それが深く、かつ厳しくとらえられ得るためには、一方では静かに落ち着いた周到な世界史的考察が必要であり、』周到な世界史的考察だから、時間と空間ですね。時間が歴史だし、空間が世界。
教科書の世界史のようにじゃなくて、歴史的・空間的に今がどういう位置にあるのかっていうのをとらえるという意味ですね。

『一方では静かに落ち着いた周到な世界史的考察が必要であり、他方では、人類の一員、民族の一員としての自覚に立って、人類と民族の未来を憂い、かつそれを愛する強い責任観念と深い愛情が必要である。』
このような言い方が、ちょっとナショナリスティック過ぎて怖いという意味で誤解を生ずる恐れがあるとすれば、責任観念と愛情を昇華した知性を通じてこそ、生きた問題状況や問題点の把握は可能なのであると言い直してもよい。
責任観念と愛情を昇華した知性を通じてこそ、問題が把握できるってことですね。『もとより私は、人類愛や民族的責任観念からして、直接に問題状況や問題点への認識が得られるはずだと言っているのではない。そのような上位の裏付けなしには問題状況や問題点の知的認識も不可能だと言っているだけである。』
これすごく大切だと思いました。
僕は大学生のとき理工学部で物理を勉強してたんですけど、本当に、ただ勉強ができるだけの馬鹿でした。
だから、何も問題をとらえられていなかったんだと思いますね。
大切なのは、そういう知じゃないでしょって、責任に裏打ちされた知でなければ、まず問題を問題だと知的に認識できないと言ってるです。
これは、さっきのレーヴィと、徐京植さんと合わせたようなことのヒントなんじゃないかなって思ってるんです。それを私たちは、マイノリティや人権という問題に対してできるんじゃないかって、こう思うわけです。
『いずれにしても、問題を感じ取るものは、愛や責任観念であって、単なる悟性ではない。そして、問題を感じ取り得ないものにとっては、問題状況も、問題点も何もあったものではない。』こう言っています。
果たして私たちは、問題を問題として把握できるんだろうか。
難しい点ですね、さあ最後にもう 1 つだけ、共感という言葉についても深めておきましょう。
日本語では共感と言いますが、英語では sympathy（シンパシー）と empathy（エンパシー）があるねって話は、最近よく聞くこともあるかと思います。
ざっくり言えば、sympathy は受動的な共感、empathy は積極的・能動的な共感だといえるでしょう。
sympathy は、僕のイメージですけど、共鳴するって感じ。振動数がちょうど同じで、ブーンと揺れてる波に対して、私自身も揺れて、その揺れが同じで、共鳴・共感するっていう感じなんですね。犬を飼ってた人は犬の映画を見て泣くとか、恋愛ドラマを見て「私もそういう経験あるな。楽しいな」とか。振動数が重なって、波が自分に広がっていくような、そういうものかなと思います。なので、似たようなものに強い、同質性に強いんですよね。
それに対して empathy は、他者の感情・経験などを理解する能力っていうふうに、イギリスの辞典では書かれていて、もうちょっと積極的な、自分からやる、想像力と知識で思いと

か経験を共有しようとすること。つまり、異質性に強い。
立場の違う人のことを積極的に考えて、知識と経験で、立場の交換を想像上で行うこと。
それを empathy ということがあります。「Put yourself in someone's shoes」と書かれてますが、汚いし水虫かもしれない他人の靴を、嫌だけども、不愉快だけど、靴擦れもするし、でも履いてみるっていうほうですね。
ただ受動的に、自分が関心があること、自分が共鳴できることだけに共感する、感情的に響く sympathy ではなくて、積極的に他者の立場になり替わろうとしてみること。empathy っていう、そういう共感が大切なんじゃないかと言われています。
さあ、いろんな言葉が出てきました。
無知の克服とか、ただ克服してもだめで、共感することが大切。知的な悟性じゃなきゃいけない。
一方で、共感っていうのも、ただ自分の同質性の部分だけでもいけない。
いろんな言葉が出てきて、そういうのを考える中で、マイノリティの問題を解決していく主体みたいなものが立ち上げられるのではないかというふうに思っています。
レジュメです。３．無知の克服と深い共感。
1 つ目、意図的な怠慢としての無知に向き合う、克服しようとする姿勢が大切だと。
2 つ目、受動的な共感ではなく、知識と想像力を用いた能動的な empathy としての共感が、また大切になってくる。これが、深い共感とサブタイトルで記したものです。
やっぱり思いやり、心だけに依拠するのは楽観的かと思います。
差別は意図ではなく、効果ですね。いろんなところで、最近では三重県知事のアンケート、外国籍者を採用することに対する県民 1 万人アンケートっていうのをなされていますが、それに対して、県の諮問機関は「差別に当たる」として、県知事は「差別に当たらない」と。差別する意図はなかったと言いますが、差別は意図ではなく効果です。発信者の意図の有無には左右されません。効果なのでね。結果的に何が起こってるのかなので、思いやりに基づく排除や暴力ってのは本当に様々にあります。
ヨーロッパの格言、「地獄への道は善意で敷き詰められている」わけです。
ちょうど昨日聞いた話を 1 つすると、大阪の音楽の先生で外国籍教員の人がいました。朝鮮半島ルーツなので、教頭が卒業式のときとかに、君が代を、その音楽の先生にお願いしますって言って、その先生が、他の校歌とかなら全部できるけど、ちょっと君が代だけは無理ですと言ったと。別の音楽の先生頼みますとなったと。それが 3 月なのかな。
で、4 月の入学式とか、いろんな行事で音楽を使うんですけど、一切その先生に声がかからなくなったそうです。その先生は学校の音楽の主任なので、「私がやりますよ」っていろんな先生に言うと、「そうなんですか。嫌だろうなと思って、あなたに任せるのはやめておきました」っていう、こういう配慮をして、その先生に行事等でピアノを弾かせないようにしてきたわけですね、これはだから、その先生に対する思いやりですよね。よかれと思って、あなたを思ってという。

本当に、思いやりに基づく排除や暴力っていうのは、世界に溢れています。
例えば、特別支援教育もそうですよね。
「あなたのお子さんのような障がいのある子のために、特別支援学校ってあるんだから、地域の学校にじゃなくて、そっちに行きなさいよ。そっちの方がその子のためだよ」みたいな。
地域の学校で一緒に暮らしたい、一緒に学びたいっていう、鳥取でどれぐらいそういう実践があるのかわかりませんけど、大阪の豊中市とかをはじめ、いろんな地域でそれをやられています。
その「障がい者のために」という論理で排除されているこどもが、いっぱいいます。なんで友達に普通にいないんですか。なぜドラマに普通に出てこないのか。そういうのも、思いやりでつくられてるわけです。だから、思いやりを過大評価しないように気をつけないといけないですね。「私の思いやりは、きっといいことだ」って思っちゃってるけども、そうならないようにした方がいいっていうことなのかもしれません。
さあ、私、いろんなところに学生とフィールドワークに行きます。
広島県の北部にある高暮ダムっていうところです。1940 年ぐらいに着工されたのかな。1949 年まで、戦争中は電気が足りなくて、突貫工事で作られたものです。
2,000 人ほどがここの仕事に従事して、100 名ぐらいの方が亡くなったってことが、地元の人たち、先生や地元の有力者とか、或いは学者たちのおかげでわかりました。
そこで毎年、今年も 9 月に行われますが、日本の高校生と広島の朝鮮学校の高校生、それから広島の市民たちが集まって、学習会をしたり実際にダムの上を歩いたり、一緒に焼肉パーティーをしたりします。私の学生も一緒にここに連れて行ったりします。
それから、岡山の朝鮮学校と交流したりとか、長島愛生園に直接行ったりする。その経験って大事だって思うんです。
無知も克服しなきゃいけないし、机上の空論だけじゃなくて、五感でいろんなものを感じて、empathy を働かせるようにする。
ただ、同調する sympathy じゃなくて、empathy も働かせようとすることっていうのが、とても大切になるのかなって思ってます。
僕は制度改革とか、政治が変わっていかなければ、差別が埋め込まれた構造は変えられないって思いつつ、やはり一人ひとりが変わっていくこともやはり大切だと思って、今、無知の克服と深い共感に関するお話をしています。
最後、４．ポジショナリティの自覚です。立場性という意味です。
立場性というのは、歴史的・社会的に築き上げられてきた自身が立つ位置、そういう意味ですね。
女性ならば女性、倉吉市民なら倉吉市民として、健常者なら健常者として、男性なら男性として、朝鮮人なら朝鮮人として、自分が一体どういう歴史的・社会的地位にあるのか、どういう権力を持っているのか。
そういうことへの自覚がとても大切になるのかなと思ってます。

立場性の話ですね、最後に 1 個だけ、今回は障がい者の、この倉本さんの話を紹介しましょう。
『健常者の方が「自分も障害学をしようかな」とお考えになられる。これは大いに結構です。歓迎いたします。ただしその時、自分が今、この社会においてどういう位置にあるのか。そのことについては、まず考えていただく必要があるということです。』この人は目が見えないんだけども、『例えば私がご飯を食べるとき、箸がうまく使えず緊張しているということは、あなたは知らない。知らないことが悪いわけではない。しかし、自分は知らないんだということを知らずに、常識をそのまま受け入れているとしたら、それは大いに問題です。知らないことを知っておく必要がある。そういった中で、加害者としての自分を発見することもあるでしょうし、逆に被抑圧者の立場に置かれることがあるという事実に気づくかもしれない。そのように、自分を棚上げにしないこと。広い意味で、当該問題の当事者であらんとすること、これが障害学の主体たりうる条件です。自分の立ち位置に無自覚な者、自分を棚上げにして、何かを語ろうとするものに障害学はできない。これが私の立場です。』
これは、決して障がいだけに限定される話じゃないと思うんですね。
男性が女性について、日本人が外国人について、セクシュアル・マイノリティについて、そうじゃない人がしゃべるとき、その時も常に自分自身のポジションっていうのを棚上げにしないこと、最初マジョリティとマイノリティの定義についても言いました。無視できる、関係なく気にしていられる、「知らない私には関係ない」と心地よく寝て、緊張もせずしゃべる立ち位置にいる私自身をないがしろにしないこと、これが大切なのかと思います。
そういう蓄積がきっと、政治や構造にすでに埋め込まれている差別をなくして、ちょっとでもよくして、あらゆる人々の生が尊重される、或いはあらゆる人々の生が軽視されない、尊厳がきちんと保たれる社会を築いていくことに、繋がっていくのではないかなというふうに思います。
すごく拙いお話になってしまいましたが、私の話は以上になります。ありがとうございました。

（参加者質問）
先生今日は、講演ありがとうございました。
私は倉吉市に住んでいます。精神障がいを抱えている当事者です。当事者としていろいろ活動する中で、やはり、障がいをもっている人・もっていない人で、どれだけその当事者の気持ちがわかるか、当事者の悩みをどれだけ理解していただけるかっていうところを、本当に大きな壁として感じているところなんですけれども、
sympathy とともに empathy としても、共感するために、双方努力が必要だと思うんですけれども、どうやったら、自分が実際に経験してないことでも、よりリアルに想像していけるか、お互いの立場として、どういった努力といいますか、意識といいますか、そういったものが必要かっていうのをちょっと教えていただけたらなと思います。

（講師回答）
はい、ありがとうございます。
とても重要なポイントを指摘してくださって、私がしゃべれなかったところを補完していただくようなご質問です。ありがとうございます。
難しいですね、双方努力が必要で。僕はただ、あんまり双方とも言いたくなくて、まずはマジョリティ側、無視してきた側がやらなきゃいけないなとは思ってるんです。
障がい者の話も、外国人の話でもそうだし、「お互い歩み寄らなきゃだめだよね」みたいに言うんだけども、僕の性格が悪いのかな、お互い歩み寄ろうというイメージでは、社会は水平な前提ですよね。
そうじゃなくて、でこぼこの社会なんですから、お互いじゃなくて、まずは無視して有利な立場にいるって勘違いしてた、マジョリティ側が empathy を働かせなければならないとは思ってます。
同時に、その際にどうすれば良いのか。そこは本当に難しくて、僕の経験上だとやっぱり知識と、すごく曖昧なところなんですけど、互換ってところが大切だと思ってます。
まずは、無知でいられた自分のポジショナリティも含めて、或いは、例えば皆さんはご存じないと思いますけど、いつから朝鮮籍があるのかとか、外国人登録はいつからあるのかと、そういう知識や歴史を学ぶ。だってマジョリティは知らなくてよかったんだから。まず学ぶってことが必要だと思います。
一方で、そういう座学だけではだめで、直接触れ合ったりとか、さっきも言ったように焼肉を一緒に食べたりという中で、例えば豊中市で脳性麻痺の人たちと一緒にお好み焼き屋に行ったときに、どうやってそこで座るのかとか、どうやって食べるのかとか、そういうのを一緒にやってみたりとか、或いは高暮ダムの広さを体感したり、ウトロの蒸し暑さを感じたり、そういうのがあって初めて empathy ですね、受動的じゃないほうの empathy も少しずつ可能になってくるのかなっていうふうに思ってるんです。
ただこれは、まだまだたくさんのケースを集めなきゃいけない話だとは思うので、一義的なマニュアルがこうです、どうぞっていうのは、絶対不可能だとは思います。
ただ一つひとつの経験を積み重ねていくこと。
個別具体的なストーリーを蓄積していくことはとても大切だと思ってます。
あと 1 個だけ。
レジュメに「「他人事ではなく自分事として」は現実的或いは有効といえるのか？」っていうふうに書きました。
それで、この差別の構造を維持している、例えば 1996 年まで優生保護法があったし、らい予防法もあった。それを何もせずに放置してきたという意味では、他人ごとではないはずです。
でも、例えば精神障がいがあるとか外国籍であるっていうのは他人ごとでしょうって、僕思

うんですよ。
あなたのことではないでしょう。私のことです、それは。
自分ごとにできるんだろうか、どんどん自分ごとにしてったら、その人は壊れちゃうんじゃないかなって思う。だから、在日朝鮮人のことは自分のことではない、やっぱり日本人のことではない。
日本人のことではないんだけど、関係はしてるし、何かがあったときに、リンクをはって、アンテナをポンって飛ばせるような、そういうのが大切なんじゃないかな。
我が事にして良いのか、僕は例えば障がいとか女性の問題、セクシュアル・マイノリティの問題を我が事にできるんだろうかっていう問いを常に抱えながら、考えています。
とにもかくにも学生たちは「自分ごととして」って言ってくるから、逆張りをしたいだけかもしれませんが、何か今の質問で思い出したので、ちょっとお話させていただきました。

分科会

【各分科会発表者等一覧】

第１分科会　　秋藤　泰之　さん

第２分科会（１）吉田　綱司　さん　（倉吉市同和教育推進員）
（２）倉吉養護学校教員のお二人
（３）本多　まどか　さん（ピアサポーター）

第３分科会　　今度　珠美　さん　（一般社団法人メディア教育研究室代表理事）

第４分科会（１）石田　敏光　さん　（前青山剛昌ふるさと館館長）
（２）礒谷　弘子　さん　（傾聴ボランティア「あいりす」）
（３）藤井　太陽　さん　（ケアマネージャー・社会福祉士）

第５分科会　※発表者等なし

第1分科会　「学びなおし部落問題」
（分野）同和問題　　（形式）講演･グループワーク
（会場）倉吉交流プラザ第1研修室　（参加人数）72 人

（講師：秋藤泰之さん）
研修方法）①講師によるパワーポイントを使った講演
②グループワーク（8 グループ）
③代表 2 グループ語りの内容発表
④講師によるまとめ

＝講演概要＝

歴史は書き換えられるということを中心に、歴史研究を進める上で、どんな成果があり、それがどう反映されてきたか。社会情勢がどう変わってきたのか。政治的な書き換えということについて、年代別に受けた部落史学習の違いについて参加者に質問形式で説明、歴史研究が進められたことにより、部落史の捉え方がどう変わってきたか。

「ケガレ」と「キヨメ」とはどういうものか。それが人の差別意識とどう関わり、そのことで人の行動がどう変化したのか。具体的な例題を出しながらわかりやすく説明。

講演の最後に歴史に向き合う 4 つの態度として、次の 4 点を説明し、その後、グループワークの話し合いの視点を示した。

1,　多面的な視野と、批判的に吟味する（根拠に基づくことの重視が必要）
2,　今の常識をあてはめず、歴史的文脈の理解をする
（今の常識は過去の闘いの成果である）
3,　記憶と責任の継承（不都合な真実に向き合うこと）
（同じ道を繰り返さないためには、なぜそれが起きてしまったのかを検証する誠実さが不可欠）
4,　対話としての歴史を学ぶことが現代の学びへの足がかりとなる
（歴史は、単なる「暗記すべき過去のデータ」ではない。歴史に向き合うことは、過去の人々を美化も全否定もせず今の自分たちにつながる等身大の人間として理解しようとする誠実な営みである）

≪グループワークの話し合い≫
① 企業の入社面接時の面接官からの質問について
聞いていいこと、聞いてはいけないこと

＝グループワークで出た意見＝

≪面接時について≫
◎グループの中では、企業、家族、本人、学校の進路担当、別の受験生と立場別に話し合ったグループが複数あり。
（学校進路担当者）
・受験生に家族の情報ではなく、自分自身のその仕事に対する動機を語って欲しい。

・言うか言わないかは本人任せ。ただ、あくまで自分の意欲と適正を伝えることができるよう指導する。
・公正採用選考についてきちんと説明し、生徒に応答する内容は、採用側は採用の判断としてはいけないことを理解させる。

（企業）
・ネガティブな情報については考える。
・自己開示してくれた受験生に対してよろこび、採用に結びつける。

（家族）
・自己開示できるように育ててきた。マイノリティで生きていくことをポジテイブに捉えられる生き方をしてほしい。
・自分たちのことは言わないで、自分の力（？）で臨んでほしい。

（別の受験生）
・自分では話せない経験が話せていいなあ。ずるいな。
〇受験生なら自分の個人情報を語ってもいいのか。受験をする時の武器として使っていて、受かることが最大の目的として使っているとしたら、他の受験生との平等性や公平性はどうか。フェアじゃないとも言える。

その他のグループからの意見

〇採用面接時の面接官側の考え方に関わるのでは？意識統一があればいいのに。
〇本人に関わることを面接官側から聞くのはダメだけど、本人が自分のことを言うのはいいのではないか。
〇自分から志望動機として等自分のことを開示しアピールするのは良いが、そのことについて面接官（企業）側から根掘り葉掘り聞くのはダメ。
〇県外から来た企業の面接等では担当者が個人的なことを聞くこともある。
〇履歴書に記入して来られる方もあり、悩ましいところだが、時により本人の意欲や覚悟を感じることもある。
〇自分がそこで自分自身の能力をどう発揮していこうとしているか、それを伝えることが最重要。家族云々ではない。
〇同和教育が私たちの時代と随分違っていて驚いた。就職選考では問う側のモラルだと感じる。聞かれた側がどう感じるかを思いやる力が問われる。自ら話すことについては、その方の背景がわかりむしろ良いと思う。
〇配慮が求められすぎて、他者との親交が深まらない側面もあるかもしれない。こう考えてしまう昭和育ちの自分のバージョンアップをしたい。
〇面接官が質問できないことは自らも言わない方がいい。（偏見を生まないシステムを壊す）就職への熱意を伝えるべき。

≪学びなおし部落問題の講演について≫

〇部落史学習を新たに考える良い機会になった。
〇部落史のことを学びたくて来た。変わってきたことを聞けて良かった。知らなかった、知れなかったことがわかった。

≪その他の意見≫

〇学校で人権の学習をして、いじめについて学びたくて、人権の市民集会があるのを知ってきた。（中止になった第三分科会（こどもの人権）の参加希望しながら移動してきた参加者より）

＝まとめ＝（講師より）

それぞれの現状認識が違う。聞いてはダメだけで考えるだけでは足りない。就職時の応募用紙に自分が書けない部分を空欄で出して不採用になったという事例があった。そのことに対し、生徒からの相談があり対応した経緯があり。マイノリティがネガティブに取られないですむ社会にすることが必要。

差別の問題をわがことにと言われるが、わがことにするために、どんな差別があったか。誰が差別したのか。

差別される理由を考えてはダメで、差別は差別する側がつくり理由はないから、差別する理由を考えることが必要。差別者目線での論理を考えていくことが大切。

差別は差別する側の問題で、個別の身の周りの事例から考える。安易に答えに飛びついてスッキリしないようにしたい。自分の中のモヤモヤ感を大事にすることで考え続けることができる。









第2分科会　「相手を思いやる気持ち」
（分野）障がいのある人の人権　　（形式）動画視聴・グループワーク
（会場）ｴｰｽﾊﾟｯｸ未来中心ｾﾐﾅｰﾙｰﾑ1　　（参加人数）57 人

1．動画視聴 「あいサポート運動ステップアップDVD」（約35 分）

鳥取県が制作した障がい特性や合理的配慮の具体的事例を学ぶための約 35 分の映像教材の視聴。

内容は、7 つの障がい種別（視覚、聴覚、言語、盲ろう、肢体不自由、内部障がい、精神・知的・発達障がいなど）の特性の解説とともに

・日常生活の具体的な場面における不当な差別的取扱いや合理的配慮の事例
・支援や声かけのポイント
・配慮の内容及び配慮が必要となる理由

を紹介したものです。

2．講演

障がいを持つ人、家族、学校教員それぞれの立場から、災害時における人権と支援の在り方について3 組（4 名）の方にお話ししていただきました。

（1） 視覚障がい者の家族の視点から（約 25 分）



60 年前に失明した妻を持つ立場から、10 年前の鳥取県中部地震での避難所体験を交えて語っていただきました。10のポイントを挙げられました。

主要なポイント： 周囲の反応／情報入手の困難さ／歩行・移動の困難／周囲の人の無理解／無学習（知識不足）からくる接し方／感覚機能の低下・麻痺／周囲からの積極的な声かけの重要性／同じ人間であるという前提／傍観的思考からの解放／災害時には誰もが「一時的な生活困窮者」になり得る。

以下は、概要です。

避難所での困難： 視覚障がい者は、雑然とした避難所内では自分の立ち位置や空間状況を把握することが極めて困難であり、トイレへの移動も一人ではできません。また、周囲の無関心や「どう接してよいか分からない」という無学習からくる壁に直面します。

防災と人権： 防災そのものが人権に関わる問題であり、災害時には健常者であっても一時的に「生活行動困難者」になると指摘されました。

求められる支援： 周囲からの積極的な声かけ（「お困りの方はおられませんか？」という呼びかけ）が大きな安心につながると説き、日頃からの人権学習を通じて「気づくためのアンテナ」を磨くことの大切さを強調されています。

(2) 倉吉養護学校の取り組み（約 14分）



倉吉養護学校の教職員であるお二人は、知的障がいや肢体不自由のあるこどもたちの教育と防災対策について発表されました。

学校の役割： 1 人 1 人の障がいの特性に応じた「日常生活の指導」や「自立活動」を通じ、将来の自立に向けた学習を行っています。

災害時の特性： 障がいのあるこどもたちは急な変化に弱く、避難時にパニックを起こしたり、その場で固まってしまったりすることがあります。

実践的な訓練： エレベーターが使えない状況での車椅子の階段避難など、「訓練を成功させること」ではなく「課題を明らかにすること」を目的とした、より実践的な避難訓練を実施しています。

地域との連携： 適切な環境整備と支援があれば、障がいがあっても地域で共に生活することが可能であり、地域合同の防災学習などを通じて連携を深めていくことの重要性を述べています。

(3) 精神障がい当事者・ピアサポーターの視点から（約 16 分）



自身が統合失調感情障がい（気分変調と幻覚・妄想などの症状）を抱えながら、同じ悩みを持つ人を支える「ピアサポーター」としての経験を語っています。

障がいの定義： 精神疾患は「脳の病気」であるが、「精神障がい」とは社会の構造やルールの不備によって生活に困難が生じている状態であると定義しています。

避難所での孤立： 過去の避難体験では、経済的理由で車を持たず移動に苦労したことや、避難所で仕切りがないために人の目が怖く、極度の疲労から翌朝動けなくなった経験を話されました。

見えない障がいへの理解： 精神障がいは外見から分かりにくいため、自分から助けを求めることが難しい場合があります。

想像力の重要性： 単なる知識として知るだけでなく、「その人がどれだけ大変で辛いか」を想像し、思いやりを持って接することが、本当の意味での支援につながると訴えられました。

3. グループワーク

終了時刻が迫っていたため、予定を短縮して 5 分間で各グループで感想をまとめていただきました。以下、各グループから出た意見です。

・日常生活で障がいのある方を見かけることがあっても、関わり方が分からなかった。思いやりの心を持って行動できる自分でありたいと思った。
・知識を得ても、障がいのある人の抱える問題への共感は得られないからこそ、相手の立場を理解して思いやりの気持ちを持つことが大切だ。
・声をかけることの大切さを学んだ。
・障がいのある人に出会ったら助けようと思える自分でありたい。
・自分の無意識な言動で人を傷つけたり、笑顔にできることが学べた。

・日頃からの近所での関わり合いなど、人との関係性を築いておくことが災害時の支えになると考える。
・障がいについて理解があっても行動に起こすことは簡単ではない。平時の意識付けや具体的に行動するための仕組み作りが大切と考える。
・民生委員等の地域の人々の支える力が必要だ。
・親族に障がいのあるこどもがいるが、災害時にはパニックになってしまうことがあるため、災害時の対応について考えておく必要があると感じた。
・災害時には、障がいのある人もない人も、勇気を持って声をかけることが大切だと感じた。特に、障がいのない人が積極的に声をかけることが必要だと思う。
・家族に障がいのあるこどもがいる。今回の分科会で、当事者や関係者から直接話を聞くことができ、大変興味深く、貴重な学びとなった。
・災害時に自分に何ができるのか、何が正しい対応なのか、まだ分からないことも多いが、日頃から考えておく ことが大切だと感じた。また、当事者の方から直接話を聞くことも、そのための一つの行動だと思う。
・自分の娘も精神疾患があり、目標になる姿だとお話を聞きながら思った。
・自分には精神疾患があり、同じ精神疾患を持つ講師の方の発表に勇気づけられた。

第3分科会　「AI時代の青少年のメディアとのつきあいかた」
（分野）こどもの人権　　（形式）講演・質疑応答
（会場）倉吉交流プラザ視聴覚ホール　（参加人数）※中止

※第３分科会は、当日のやむを得ない事情により中止となった。

第4分科会　「誰もが安心して老いることのできる社会とは」

（分野）高齢者の人権　　（形式）トークセッション・グループトーク
（会場）ｴｰｽﾊﾟｯｸ未来中心ｾﾐﾅｰﾙｰﾑ3　（参加人数）58 人

■開会（15:30）■（岩間企画委員）

■オリエンテーション■（大月企画委員）

皆さんこんにちは。

ただいま紹介いただきました実行委員会の委員をしています大月でございます。

今日はたくさんこの分科会を選んでいただいて、どうもありがとうございます。

この分科会は、お手元にあります、レジメに沿って進めていきたいと思っています。ちょっと 15 分くらい押していますので、トークの時間が短くなるかもしれませんので、ご協力よろしくお願いします。

今回の分科会は、私たち、赤ちゃんとして誕生して成長していって、誰もが自然に老いていくということですよね。

若い人も、これからは自分のこととして、本当に安心して暮らせる、この社会ってどうしたらいいんだろうかなってことを皆さんで考えたいなっていうふうに思っている分科会でございます。

実は私、先月の 28 日に 80 歳になりました。

70 歳のときには年代のこと考えることもなかったけど、80 っていったときに、

何かちょっともやもやっとしてね、何か、心の変化がありますよ。

何がどう変わったかもわからないけど、何かちょっと私の中でいろいろ感動してるものが、あるようでございます。

この分科会は、私のことでもありますし、皆さんのことでもありますので、そんな意味で日々のこと考えながら、どんな暮らしをしたら、本当に倉吉に住んでよかったなあって自分自身も倉吉におってよかったなっていうことが考えられるような分科会にしたいなというふうに思っています。

いろいろ、何か覚えて帰らないといけないっていうこともたくさんありますけど、この分科会では、覚えて帰るよりも、皆さんでお話をされて、いろんな意見を聞かれて、そうかそうかなっていうふうにこんな考えもあるんだなってことを、心の中で感じて持って帰っていただいたらうれしいかなっていうふうに思っていますので、特別に分科会の内容を書いたり、覚えたりすることはありませんので、十分に、話し合ってみなさんの意見を言い合っていただけたら嬉しいなというふうに思っています。

よろしくお願いいたします。

【拍手】

座って進行させていただきます。

■■第1部■■ トークセッション（聴き手：大月企画委員 以下「大月」）

大月）今日はこの会に3名の方をお呼びしまして、いろいろ聞いてみたいなと思っています。

3 名の方に登壇していただくことになりまして、もう本当にみんながぜひこの人に登壇して欲しいという方を実行委員会で決めまして、3 名の方に今日おいでいただきました。本当にお忙しい中、ありがとうございます。

あまり私がしゃべるのは、これで終わりにしたいと思いますので、それぞれにお話を、もう早速お聞きしたいと思いますので、よろしくお願いします。

ちょっとだけ、この話をしたいなっていうことだけは言ってありますけど、具体的なことはあまり話していませんので、驚かれることもあるかもしれませんけど、どうぞよろしくお願いします。

嫌なことは嫌だと言ってやってください。
それでは、石田さんからお聞きしたいと思いますけど、石田さん、今、お年は何歳ですか。

石田さん）はい。
皆さんこんにちは。
若干、3 歳です。
石田敏光（年三つ）です。
年がですね。
はい。
ということで 74 歳です。
来年 2 月には、いよいよ、待っていた後期高齢者になりますので、ただびっくりしたのがね、介護保険料、前はですね、これだけはもうびっくりしちゃいましたけどね、負担が大きいなあと思う年になりました。
よろしくお願いします。

大月）ありがとうございます。
それでは、次に、藤井さんにお聞きしますけど、お年は聞いてもよろしいでしょうか。

藤井さん）もちろんです。大丈夫です。
はい。藤井太陽と申します。私は今年、誕生日が 10 月なんですけれども、誕生日が来ましたら 49 になります。
はい。ね、もうそんなに若くはないんで、若いですねと言われるんですけど、中身はだいぶ老いております。
よろしくお願いします。

大月）よろしくお願いします。
はい。それでは、礒谷さんお願いします。
でも、ちょっと年を聞いていいかなと思う自分に、ちょっとアンコンシャス・バイアスがあるのかなと。
男の人には平気で聞いていたりね。
何で女の人にはちょっと注意するのかなっていう自分はちょっと反省していますけど、よろしいでしょうか。

礒谷さん）はい。
大丈夫です。
はい。体重を聞かれるのは嫌ですけど、年は大丈夫です。
石田さんより先に、後期高齢者になりました。
4 月で 76 歳になりました。
よろしくお願いします。

大月）ありがとうございます。
それでは、年齢は皆さん、これは覚えなくてもいいですよ。
今日最初に石田さんにお話をいただきましたけど、石田敏光さんは、皆さんよくご存じだと思いますけど、4代目の

青山剛昌ふるさと館の館長をされていました。
今のこんなに発展があるのは、多分石田さんの、初期の活動がすごく影響しているんだなっていうふうに、私自身は思っています。
よろしいでしょうか、こんな紹介で。

石田さん）はい。

大月）それでは、礒谷さんのお話をしたいと思います。
礒谷さんは今、傾聴ボランティア「あいりす」の団体を代表されていますが、どこの名前を皆さんにお知らせしましょうかって聞きましたら、もう5以上の団体で活動されてる。だからもう本当にたくさんいろんな場所で活動をされている礒谷さんです。
よかったでしょうか。

礒谷さん）はい。ありがとうございます。
あの初代は、竹森民枝さんという方が「あいりす」の初代でして、竹森さんは、この世に生まれてきた人がこどもでも老人でも男でも女でも、みんなが幸せになる社会に作りたいということで、始められました。
私たちはその意思を継いでいろんなことをしています。
施設訪問、家庭訪問、それから地域の中で、コミセンや社協とも協力して、おしゃべりサロン作ったりとか、それから地域の障がいの方、いろんな方と集まって交流会したりとかそんなことをしております。

大月）ありがとうございます。
それでは藤井太陽さんです。
藤井さんはケアマネージャーと社会福祉士もされています。
私は 10 年よりちょっと前だと思いますけど、藤井さんのお話を聞いて、とても感動的で、説明もよくわかりました。
というような、三人の方でお話を進めていきたいなと思っていますのでよろしくお願いします。
【拍手】

大月）それでは、それぞれに、私は言いましたけど、何か年取って、どう言ったらいいんですかね。
自分が年取って感じられたこと。
年取ったなあと感じるときって、そんなときがあったかなと思います。
その辺のことをちょっと聞かして欲しいなと思います。
それでは、石田さんからお願いします。

石田さん）はい。
最初に年取ったと感じたのはですね、65 歳のときに、民生委員さんが来られましてね、「あなたは独居老人ですよ」と。今から 12 年前だったんですけど、本当にその時に、あらっ老人？
もうあんまりね、年は感じてないんですよ。
青山剛昌記念館に勤めたのが 58 歳のときで、70までやらしていただきましたので、遠藤玉恵さんとはですね、ま

ちづくり一生懸命やりましてね、青山先生の「話そう DAY」とかですね、お世話になりました。

大月）ありがとうございました。
礒谷さんは、いかがですか。

礒谷さん）年をとったのはもう日々感じております。
足が重いし、バランスは取れないし、高いところには登れないし、もう日々毎日が自分の足と戦っています。
それから、この前、こどものところに遊びに行くときに、汽車で切符を買おうと思ったら、緑の窓口は使えなくって、自動販売機で買ってくださいと。そこで、大変手間取りました。
それから、昨日、仲間と一緒に食べに行ったんですけどね、注文するのに、言葉で注文しないで、スマートフォンで注文しなきゃいけないお店で。もう、高齢者、この世には生きていったら、生きる場所がないなぐらいで、すごく戸惑ってます。はい。

大月）はい。
そして、藤井さん、こういう話を聞くとちょっと酷かなと思いますけど、施設でね、働いていただいてる方を見てて、あっ、年を取られたなっというふうに思われたり、もしもご自分が年を重ねて、これからどうしようかなとかっていうふうな思いが、もしもあれば教えてください。

藤井さん）はい。私自身のことなんですけれども、絶賛年を感じております。
ていうのは、10日ほど前に、何もしてないのに急に腰が痛くなりまして、はい。
私もともと腰痛もちで介護現場でも働いてたんで、大体 5 年に 1 回ぐらい、ちょっとひどい腰痛をするんですね。
それが若い頃、5年に1回だったんですけど、年々その腰が痛くなる頻度がですね短くなってきてまして、5 年が3年になり、それが 2 年なりで、去年今年と毎年腰を痛めるようになってまして。
腰痛が出てくる頻度が短くなってるんですね。非常に年を感じているのと、あと腰が痛くても大体病院に行って、しばらく安静にすれば大体 1 週間ぐらいで、元の生活に戻れるんですけども。
実はまだ腰痛くって、10 日から 2 週間ぐらい経つんですけど、治らなくって、まずそれで体の衰えをすごく深刻に感じておるところです。
あとは、長くこの福祉の仕事をしながら、私の職場でもリーダーというか管理的な仕事をしてるんですけれども、昔はこうだったっていうような言葉とか考えがですね、少しずつ増えてきたなっていう時に、何か、年を取っちゃったなというふうなことを思ったりする次第です。
はい。以上です。

大月）ひしひしと、年をとったなっていうのを、感じがあるそうです。
でも多分、回復期間が長くなるっていうことは、やっぱりそういうことだなっていうふうに思います。
私もなんかね、もやもやがいっぱいあるってふうに思いましたけど、70 代後半の時に、待ってるとき、県外に出かけることが多くて、東京に行きますと、階段が多いです。上がったり下がったり、その時に下りのときに、転びかけたんです。
荷物を持っていたために、荷物を抱えてくださったんです。もし荷物がなかったら私、下まで転げ落ちていたなって

思うぐらい、やっぱり足が、さっき言われてましたけど足が弱っているんだなって思いましたけど、隣の人がさっとかばんをもってくださったっていうのが、すごくうれしかったですね。
そんなふうな状況で、これは年齢相応かなとか思いながら、今、一生懸命歩きながら足を鍛えています。
それでは皆さん、私のことより皆さんのことを聞きたいなと思いますけど、今いろんなプロセスの中にあるんですけど、やっぱり年取ってもなんか絶対に失いたくないっていう、これだけはっていうものがあればよかったら教えていただけますか。
じゃあ、藤井さんの方から聞きましょうか。

藤井さん）年齢を重ねても失いたくないものということで、もうちょっと 3 つぐらいかな、ベストスリーぐらい、多いですかね。
まずはやっぱり健康ですかね。と思います。
今、腰が痛いのですごく深刻に思ってますし、仕事場の高齢者さんと生活であるとか医療や福祉の相談に乗る中で、やはり体を痛められて自分の望む暮らしができられない方のお手伝いをさしていただいてるんですけれども、やはり自分が元気じゃないとそういった方々の支えもできませんし、やっぱり自分がしたい暮らしって今腰が痛くってできないことも多々あるので、まず健康を失いたくないなというところと、あと、私こどもが 3 人います。
今年から上の子と中の子が社会へ出て行きます。
なんですけれども、やっぱり家族の繋がりを失いたくないなというふうに思ってますが、一番はですね、非常に現実的な話で申し訳ないすけど、お金ですかねと。
やっぱりお金って大事だなと思うんです。
ただ、たくさんもらってるとか、たくさんタンス預金でね、タンスの中に札束とかそういう話をしてるわけじゃなくってね、やっぱりお金がある程度あって、自分のしたい暮らしが支えられる程度のお金があることだと思うんですけど、やっぱりなくしちゃうってね、詐欺とかにあって、大事なものをなくさないようにしなければならないなというふうに思って、日々暮らしております。はい。

大月）ありがとうございます。そうですね。
礒谷さんいかがですか。

礒谷さん）はい。
私はね、もう 76 になったんでね。人生がもう先が見えてきました。
あと何年生きられるかなあと、終わりが感じられるようになったので、1 日 1 日を大事にしたいなと思っててね、3 つあげます。
夢と希望と感謝。それ持ってれば、何か毎日が大事に過ごせるかなと思って、とても大事にして生きていきたいなと思ってます。

大月）はい。ありがとうございます。
では、石田さんいかがですか。

石田さん）はい、チャレンジ精神をね、常になくしたくないなと。

今日も頼まれたんですけど、断らず頼まれたことはやろうと。
これも楽しくやろうという気持ちで思っております。
あとはね、「きょうよう」と「きょういく」。「今日の用」、「今日行くところ」、これだけは忘れないようにしたいと思ってます。よろしくお願いします。

大月）すてきですね、何かちょっと私も勉強になりました。ありがとうございます。
もっと話がしたいんですけど、ちょっと違う視点でのお話を聞きたいなって思っています。
皆さんにお聞きしたいんですけど、年齢をね、重ねるっていうのは仕方がないことだけど、なんかもう嫌だなって。
今、ちょっとあんまり年取りすぎて嫌だなあとかって思われることが、生活の中でもしあればお聞かせいただきたいなと思っています。
それでは石田さんの方から答えていただけますか。

石田さん）あんまり嫌だなんてことはないんですけども、病気をしてやっぱりできなくなっていろんなことをですね、約束が守れなくなったとか、やっぱりちょっとこれが嫌だなと思います。

大月）そうですね。じゃ、礒谷さん。

礒谷さん）はい。私は自分の偏見を感じてましてね、年齢で人を見ることがあって、何か、この人はもう高齢だからとかね。若い人を見たら、まだ若いなあとか。
それから、私自身の経験ですけども、やっぱり仕事辞めてからしばらく仕事してたんですけども、年齢が来たら、何となくね、遠慮したほうがいいなっていう雰囲気を周りから感じましたってことで、やっぱり年齢で見られてるところたくさんあるなと思ってます。

大月）ありがとうございます。
藤井さんいかがですか。

藤井さん）今でも本当同じで、私もなんかね、年齢で見てしまうというか、私自身が年を取って困るなあとか、やだなってのはあまりないんですけれども、仕事をする中でやっぱり、高齢者さんのお宅に入っていたりするときに、もうこの人何歳ぐらいかなっていうイメージがわいちゃってると、やっぱそういう、80 超えておられるからこんなことなんだろうなとかっていう、勝手に決めつけてしまってる部分っていうのがやっぱりあるなっていうふうに思うので、やっぱそれは、決めつけてしまったらいい話にもなっていかない部分があるので、なるべく年齢とかは、年齢で人を決めつけたりっていうこともしないですし、あと、特に女性の方にですね、年齢を伺うときには、大分、気を使っています。
女性と男性で差をつけるのもちょっとそれはもうアンコンシャス・バイアスではかと思うんですけど、特に女性の方に初めてお会いしたときに、あまりね聞くのもよくないかもしれないけど、年齢をお伺いしてもよろしいですかって大分気を使いながら年齢を聞いたりして、嫌な思いをさせないように気をつけたりはしてます。

大月）ありがとうございます。
いろいろ生活の中ではね、時々自分自身も嫌だな、自分でも嫌だなと思うこともあるし、相手の行動見て嫌だなっ

ていうふうに思われることもたくさんありますけど、なかなかそれを克服するっていうのは難しいですけど、自分のことだったら、ちょっと自分のこのことは嫌だけどということをちょっと漏らすと、「いやそんなことないで」って言ってくれることもあるかもしれません。自分をあまり責めないで、楽しく生きていけれる方がいいかなとは思います。
また、次の話に進めさせていただいてよろしいでしょうか。
皆さんがいろいろすごい活躍をね、されていらっしゃると思いますけど。
今、何か世代間でね、地域づくり、地域を守るために、一般的に年取った人と若い人とが一緒になって活動することが少なくて、地域の活動の活性化ができないっていうようなことをよく聞くんですけど、もう、活躍すごいされてる皆さんにその辺の秘訣というのがあれば、聞かしていただきたいなというふうに思っていますけど、まず若い藤井さんからどうですか。

藤井さん）秘訣ですか。何でしょうねえ。
世代をまたいで地域で活躍していくなかでも、やっぱり、いろんなところに顔を出して繋がるっていうところは工夫というか頑張ってるところでございます。
私は今日、倉吉市の集会なんですけど倉吉市民ではないものでして、わが町だったら 3 年ぐらい前から家の近くで「子ども食堂」をやるようになりまして、私が主催じゃないんですけど、そこのスタッフとして行かせてもらう中で、本当に子ども食堂なんでお子様は常におられるんですけど。
結構子ども食堂にこられる方の半分ぐらいは高齢者なんですね。地域が高齢化なので、ですけど、そういう場に参加することでいろんな人と顔が繋がるようになってくると、声かけてもらえたりみたいなところ、そういう、知っている間柄っていうのがやっぱり我々ががんばれる原動力になるのかなというふうに感じておりますので、何かやっぱりいろんなところでいろいろ顔出したり、研修会とか講演会とかでもいろいろ顔を出して知っている人をふやしていくっていうことが活動の原動力になってるかなというふうに思っています。

大月）はい。ありがとうございます。
いろんなところに顔を出されているんですね。

藤井さん）はい。

大月）礒谷さん、どうでしょうか。

礒谷さん）はい。私はささやかな活動ですけどね、地域の中におしゃべりサロンを作ってるんですよ。
そこには赤ちゃんが来たりとか、それからまだ 20 代の男性が来たりとか、それからね、若い女性が来たりとか、少ない人数なんですけども、そういうので、世代間の交流が少しできるかなと思ってます。まだまだちっちゃなことですけども、それと藤井さんが言ったように、自分自身がいろんなところに出て、こどもたちと接しなきゃいけないし、それから、この前、高等学校に行きました。
今度養成講座開くんで、養成講座の中に、コミュニケーションのつくりかたとかあるからそれに来て欲しいのもあるし、ボランティアのグループに受付してもらえないということでね、先生に頼みました。
もう何かチャンスがあれば何でも動いて、つながろうと、今、思ってます。

大月）すごい行動力。
石田さんいかがですか。

石田さん）はい。青山剛昌ふるさと館を辞めましてから、ちょうど、コナン探偵社から頼みがありましてですね、「コナンズキッチン」というカフェレストランがあるんです。
そこで、土日祝日も、月に大体4～5 回、1日 3 時間だけ、アルバイトをさせてもらってます。
いやあ、「ものつくるのもできないよ」、といったら「口があるだろう」ということで、ウェイターをやってます。
若い人と話ができるということで。それからまた、コナンファンとですね、よくやってきましてね。やっぱり若い人と話ができる。その職場も全員若いですから、私が 1 人、ずば抜けてまして。
そういうところで、若い人と一緒に仕事できるというのは楽しいですね。
ありがとうございました。

大月）石田さんの若さの秘訣はそんなところからくるんでしょうね。
よく若い人と一緒にできないっていうのでね、結構私たちの仲間では、あの人は、まだ若いけ、仕事しよんなるけってね、なかなか手伝ってもらえよとかっていうふうな話をよく聞きますよね。
だから最初からあきらめているっていう場合もあって、ちょっと、声をかけてみると、意外と参加をしてくださることもあると思うので、なんかそういうふうな私自身の偏見があって、なかなか自分が難しさを作っている事がよくあるなっていうことを感じたので、そういうふうな見方はなるべく自分も少なくするようにはしたいなっていうふうには思っています。
みんなでね、一緒にまちづくりができたらいいかなっていうふうに思ってます。
そしたら、最後にもう 2 つだけご質問ありますけど。
なんか、今ね、まちづくりの話をしていただきましたけど、何か皆さんが思われる、こんな町だったら安心して暮らせるなっていうような、もしもイメージがおありでしたら、聞かしてもらいたいと思いますがいかがですか。 石田さん。

石田さん）はい。
何か非常に難しい問題なんですけども、まず 1 つはね、相談できる地域というか、いろいろ相談してアドバイスをいただけるといいますかね。あとは無理強いをしない。
無理強いもしないそれずっと思ってるんですけど、無理強いをしなければ、いろいろ一緒にやっていけるんじゃないかなと思ってます。
よろしくお願いします。

大月）じゃあ、次、礒谷さんお願いします。

礒谷さん）はい。難しいですよねえ。
私は児童相談施設に勤めてましてね、虐待の問題がすごく今クローズアップされてるんですけどね。
虐待の問題に出会ったときに、地域の人がね、やっぱり関心持ち合うこと、それが一番だと思ってて、専門機関が乗り出す前に、地域の人が気づいて、その家庭に支援してくださるのが一番まとまってるんでね。
その繋がりづくりのために、おせっかいをするっていうことが大事で、自分が変えるってしょうと思わないでね、でき

ること、挨拶するとか、大根持っていってあげるとかね、そんなんでいいのでできることをお互いにし合う社会になればいいなあと思ってます。

大月）ありがとうございます。
それではこの中で一番若い藤井さんから、どんな地域にできるか、安心して暮らせるかなというふうに思われるイメージどんなイメージですか。

藤井さん）はい。高齢者さんに関わる仕事をする中でまずすごい現実的なところをいうと、どんな地域だろうっていうのがやっぱり歩いて行けたり無理のない範囲で、店がある、病院がある、銀行がある、そして本当に余暇活動が出来る、歩いて行けたり、バスの路線がたくさんあって、比較的楽にいけるっていうのがまず大前提だなと思うんですけど、本当にね、町によってはそうなってないところもたくさんあって、なのでやっぱり安心して暮らせるってやっぱりその暮らすために支える組織なり資源みたいなものがね、簡単にというわけじゃないですけど、楽にアクセスできるっていうのが大事かなと思いますが、もう 1 つ大事だなと思うのがやっぱり、人との繋がりというか自分のことを知っててくれたり、自分のことが言える町なんですかね。
私大学の 4 年間、県外に出ておりましてそれ以外はずっと地元にいるんですけれども、大学 1 人で一人暮らしをしたときに、やっぱり周り誰 1 人知った人がいない状況なんですね。
最初の 2 ヶ月 3 ヶ月、友達もできなかったり地域にどんな人がいるかも全然わからないので、最初の 2 ヶ月で何かで病気しました。喘息みたいな症状が出ましてね。
なんか、部屋が汚かったせいもあるかもしれないけどね。
ですけどそういった友達ができて地域の住んでたところの町の人たちとも顔見知りになっていくことがやっぱりすごく安心して、何か困ったときにあの人にちょっと相談したらいいやみたいな、そんな間柄ができてきまして、地元に帰ったときにはやっぱりもう当たり前にそれがあるので、とてもとてもほっとしました。
仕事の話をちょっとすれば、先ほど礒谷さんがおっしゃってる私の社会福祉士っていう仕事は、権利を守るっていうのがメインの仕事になるので、高齢者虐待というところですね。
その時にやっぱり虐待をしてしまわなければならなかった人たちって、どうしてもその地域から、家庭内から分断されちゃってる。特に地域の中にいても、あの人介護で困ってるんだっていうふうに気づいてもらえずに、1 人で頑張ってる人たちっていうのが、どうしようもなく叩いちゃったり、お金をっていうようなこともあって、よく最近言われるのが助けてが言えない人たちっていうのってやっぱり、自分のことを知ってたりとか、気軽にものがいえるっていう繋がりがないからこそ起こるんだなって思いますので、安心できるって、何となく緩くでいいので知っててもらったり、相手のことを知ってたり、なんか時々無理が言えて、時々でいいんで無理言わせてもらえたらいいなって言えれる、言ってもいいんだなって思える地域かなあというふうに感じます。

大月）はい。ありがとうございました。
今日、私たちのこの第 4 分科会は安心して暮らせる、町、地域づくりっていうことなので、この 3 名の方のご意見は、とても、貴重なお話だなというふうに伺いました。
で、もっと 3 人の方々を深堀したいんですけど、なんか時間が押し迫ってますので、3 人の方は、それぞれのテーブルの方にも入っていただきますので、またその中でまたお話を、あんまり質問攻めしないように皆さんと一緒に話をさせていただいたらうれしいかなっていうふうに思います。

本当にお三人の方には、何かお話しにくいこともあったのではないかなっていうふうに思いますけど、たくさんいろんなことをお話いただいて、ありがとうございます。
では皆さん、この3人の方に御礼の拍手をしていただきたいと思います。
【拍手】

■■第2部■■ グループトーク
大月）それでは第二部のテーブルでの「グループトーク」に入りたいと思います。
では、休憩時間をとっていませんので、ご自由にそれぞれが休憩とっていただければなというふうに思いますので、よろしくお願いいたします。
それでは、少し皆さんでの話し合いの説明をさせていただきます。
各テーブルには、実行委員が進行役として１人いますので、よろしくお願いします。進行の内容は実行委員の方にお任せしますが、一番皆さんとお話をしていただきたい内容は、皆さんのテーブルのところに伏せてありますカードがありますので、そのカードを使いながら、実行委員会の方を中心にお話をしていただきたいなというふうに思っています。
お話が大体進んだとき、この時間では 45 分ぐらいと思ってます。45 分ぐらいに、誰か一言感想を言ってもらいますので、それまではご自由にお話をしていただければいいかなと思います。
先ほど、すごくいいお話をしてくださいましたけど、何か、ただ、こうあらねばならんとかね。こういうことが正しい、守らんといけんとかじゃなくって、それぞれ皆さんが感じられていることを、皆さんと素直に、お話をされて進めていっていただきたいなっていうふうに思っていますので、それでは、進行役を、実行委員の皆さんにお任せしますので、どうぞよろしくお願いいたします。

【参考】グループトークの流れ
各テーブル（４～５人）毎にテーマやトークセッション、日頃感じていること等について自由に話し合う。
１．自己紹介
２．アイスブレーク（高齢者の日常をイラストにした１枚のカードを見てこの時この高齢者はどんな気持ちだったか等を想像し、それぞれが発言するもの）
３．メンバー同士で自由に情報・意見交換を行う。
４．時間が来たらそこで終了（まとめ等はしない）
５．司会者の進行で、グループ順に「代表者１人」が話し合いの感想、気づき等を手短に発表する。

【グループトーク開始】
↓
【約 40 分経過】

大月）すみません。時間が来ましたので、お話し合いはこれでストップします。それではマイクを持って回りますのでそこの前のグループから手を上げてください。ではお話しください。

■第1グループ■

発表者）失礼します。第１グループです。ご覧のとおり男ばっかり４人で、メンバー的にも 65 とか 75 とか割といい感じに分かれていまして、いろんな話をしてまして、絵を見た感想は、とにかく生きがいとかの話とかして、いろいろ勉強になりました。人付き合いについて。

大月）ありがとうございました。

【拍手】

■第2グループ■

発表者）はい。第2グループです。

第２グループは、１人で食事をしている高齢者ということで、幸せでしょうかってことなんですけど、年代がいろいろなんで、体験だったりとかから、一人で食べてるけどやっぱり日々、いろんなことをしとって、別に不幸とか、幸せではないと思わず、日々の生活の中で、充実してるって話を聞いて、けどやっぱりイメージとしては、１人でご飯食べとる高齢者っていうことで、寂しいんじゃないかっていうことあったんですがやっぱり、自分のその周りの環境によって過ごし方だったりとか、思いがあるのかなっていうことは感じました。

あと、安心して暮らせるまちづくりということで、子ども食堂をされておられる、上井地区があって、すごいなって思って、隣近所が今誰が住んどるかわからんということで、確認できん、で防災に関しても、何かあったときに困るということで、そういうサロンであったりとか、そんなに近所との関わりは大事だなとひしひし感じました。

はい、ありがとうございます。

【拍手】

■第3グループ■

発表者）第3グループは安心して老いるということは、私ももう、後期高齢者になりますけれども、要は皆さんと、ここ元気な人ばっかりおられるので、社会参加することにあるでないかなと私は感じましたので、皆さんも、これからも老いずに社会参加をして、見聞を広めていただけたらと思います。

はい。以上です。

【拍手】

■第4グループ■

発表者）ここのグループはですね、ユニークな人が多くて、つい最近まで、建築関係の社長をしとったという人。

それからもう１人は 70 になるけど、70 になってピアノを始めたっていう人とかですね。この間は東京都庁に行ってピアノ弾いたとかって。

私はっていうとですね、今、朝、早く目が覚めて４時前に起きて、ポチポチしとって、１人で朝飯食べて、昼、また、女房はおるですけど朝寝てますので、それから、夕方７時前に食事をして寝るという毎日。１つだけね、ちょっと紹介したいのは、私 13 年ぐらい前にですね、公民館長４年間したです。生田の難波さんという館長がおられて、20 年くらい館長をやられて、その人がね、やれるときにやれる人がやれることをするということですね。もう１つが、やってもやらんでも一緒ならやっていいじゃないかと。

だから、もうやってもやらんでも一緒なんでもうやめて、何もやめてということじゃなくて、１つ１つやってみようかと

いうことに励まされて、4 年間館長をしました。
これはいい言葉だと思ってですね。
だから、時間があれば、何かしようかと、1 人でもですね、女房はさておいて、ということです。
【拍手】

■第5グループ■
発表者）第 5 グループ発表させていただきます
いろんな話が出たけどねえ、皆さんのグループで出たような話をいっぱいした。
取りまとめを、よう書いておりません。
ただ、思ったのはねえ、皆さんが、老後のことは心配しとんなるけど、みんながちょっとでも長生きせんといけんなという話が出ました。
そう思ってねえ、これだけね、長いこと生きとるだけ、もうちょっと長生きしよいやということで。
みんなのいろんな話を聞いて、聞くのもいいですよ、聞いて、参考になることいっぱいありますけ。そういう話でね、和やかに、ずっとこの会をして、時間が足らんくらいいっぱいぐらいしゃべりました。
以上です。
【拍手】

■第6グループ■
発表者）まず最初に、このグループのそのイラストは横断歩道の前でって言うのでした。
まず、この、高齢の女性が横断歩道で佇んでます。
男性 3 人は知らんぷりですが、男の子だけちょっと見ています。
ここでどう感じるか。
おばあちゃんが立ちどまってるのか、こどもに調子が悪いから見てくるか、それぞれに意見はありました。
それ以外の話では、まず年を感じるところから。
ATMとか、機械に不慣れになっていくとか、運転が不安になってくる。
でも生活する上で、車がないと非常に不便ですので、行動、車での行動範囲は狭くなってくるけれども運転免許は返納したくない。で年を感じる。私です。免許の更新が今年の暮れなんですが、鳥取公安委員会てのから封筒が来ました。何も悪いことしてないのに何かなんて言ったら、免許の更新までに自動車学校行ってください。
これでめっちゃ年を感じました。
以上です。
【拍手】

■第7グループ■
発表者）とりあえず、いろんな話出ましたけど、一番ちょっと話題だったんで自分が印象に残ったのは、お墓参りにお孫さんを連れて行って、先祖供養ですかねえ、それを続けていこうという話が出たときに、やっぱり当たり前のことを何か、何か自分もちょっと忘れてたんじゃないかなあと思って。
今年はうちの方のおやじが 25 周年ぐらいなるだろうか。一応お寺行ったんで、ちゃんと供養をやっていきたいっていうことです。

以上です。
【拍手】

■第8グループ■
発表者）ここのグループはおじいさんがベンチに座って、子ども達が遊んでる絵なんですけども、こどももいなくなりつつあってこの風景があんまりないなっていうところの話が出ましたし、普段、こうやって地域の繋がり、顔を覚えてもらうことで災害時だったりとかって時にあそこのおじいさんがおらんがなみたいな話になったりして、地域の助けになったりする。
こういうところで、繋がるっていうところは大事なのかなっていう話が出ました。
以上です。

■第9グループ■
発表者）私たちのグループはおばあちゃんを中心に、その息子さん夫婦らしき人と、その、あと、小中学生らしき、こどもさんって、三世代の絵がテーマだったんですけど。今、ここは 60 代以上の若いだったんですが、やはり一回こどもが家から出ていくとなかなか帰ってこないなということで、理想の家族だなという話、ずっとその話がありました。
ありがとうございました。
【拍手】

■第 10 グループ■
発表者）10 グループ。先ほど同じ横断歩道の絵ですね、同じだと絵だと思います。
同じように、高齢の方が杖を使われてるということで、歩きづらいかなというのもあるし、子どもがちょっと困った顔をしていると。あと、右側の緑を着ている若い子はスマホを見て、歩きスマホしてるのは危ないかなとか、いろいろそういった話が出ました。
他にもですねいろんな話が出た中で、地区の民生委員のなり手がないという話が出まして、やっぱりそこからいろいろと公民館の役員、公民館長をするなり手がいないとか、いろいろそういった話が出てきまして、その中でコロナによって、例えば運動会とか祭りってのがなくなってしまったんで、繋がりがなくなってしまったっていうのもあるし、あと若い世代が、公民館の役員、館長さんが、どういった仕事をしてるのかわからない。いざそれを順番が来てからやろうと思っても、何をやるのかわからなくて不安になってしまったら受けれない、って形でなり手不足になってるのかなっていうような話も出てました。
やっぱりコロナのときになくなってしまったのでそういった祭りであったりとかっていうのを、いろんな世代、全世代で交流ができる場所っていうのを増やしていくことで、そういった繋がりが出てくるのかな、公民館長さんが何をしておられるっていうのもわかってくる。
やっぱりコミュニケーションが必要というのもありますし、最後に礒谷さんからも、いろいろ無理強いはできないんだけども、自分ができることを、少しずつ小さなことでもやってみることが自分にとっても一番いいのかなっていうような話も出ておりました。
以上です。
【拍手】

■第 11 グループ■

発表者）失礼します。最後ということで、このグループでは、1 人で食事をしている高齢者。

この 1 人で、食事をしてる高齢者がどんなことを思って、この人は幸せでしょうか、っていうことについて、話をしました。

非常に浮かない顔で寂しそうな顔をしているので、連れ合いさんに先立たれて、1 人でそれを思い出しながらさみしく食べているんじゃないかっていうふうに読み解いたり、だからちょっと幸せ度は低いかなって思われたり、そうではなくって、このテレビが映っているんですけれど、テレビで、後期高齢者ですね、負担増みたいな、そういうニュースを見ながら、これから十分やっていけるんだろうかという不安の方ですね。

これからの人生を、憂いているっていうふうに捉えた。でも、こうやって食事がちゃんと食べれて元気に日々過ごせてるっていうことで言えば、もしかしたら幸せなのかなっていう見方もあったり、いろいろご意見いただきながら、話をしましたけれども、ここ最後のグループなので、今まで話していただいた方の話っていうのは、どのグループからもあったのは、大体話が出てきましたし、実際それぞれの今の生活について、或いは介護されている方もあったり、その大変さっていうことも、共有しながら話を聞きました。

そういった中で、最近の状況として、いろんな集まりっていうかね。地域の集まりが、減ってきているっていう、そういう現状がありはしないか。

例えば夏休みといえば、ラジオ体操で、こどもたちが、公園とかに集まってラジオ体操を昔はどこでもしてた。だけど、いろんな事情で、土日が休みになり、お盆も休みになり、週 3 日しかラジオ体操をしてない。

こどもも少なくなって、或いは完全になくなった地域も、いろんなパターンでですね、こどもも喜んでるかもしれないけれど、そういった中に、例えば地域の、住んでる人も一緒に参加してするっていうのも、健康にもすごくいいんじゃないかっていうご意見や、今年は、それこそ今、熊本では、ね、被災して、大変な状況もあるわけなんですけれど、鳥取に、倉吉においても震災から 10 年、ちょうど 10 年、熊本地震後半年後に大きな地震が来たっていう中で、やはり特別なことがあったときに、地域の繋がりというのがすごい重要になってくるなと。

やっぱり、日頃から顔合わせたり、1 年に 1 回でも、一緒に地域にどういう人がいるかということを共有することで、そういったことを助け合ったりすることができるんじゃないかっていうようなことも、話をしました。

まとまりませんが以上です。

【拍手】

大月）たくさん発表していただきまして有難うございます。

私がお願いしたのは、「一言」でした。

これが皆さんの「一言」だなあと、皆さん感じられたことがたくさんあったのではないかなあと思います。やっぱり考え方とか、感動とか生き方とか老いとかね、一人一人が違うっていうことは、すごく皆さん今回経験されたんではないかなっと思います。

いろいろ、正しいこととかいろんなことがたくさんありますけど、まずいろんな世界のことは、「まず自分事として考える」、「そこから出発する」っていうことが一番大事じゃないかなっていうのが、この会のねらいでございました。

ですから、いろんなことが「差別をしたらいけない」とか、「もっと女性がしっかりしなきゃいけない」とか、「何かこういうことが必要なんじゃないかな」っていうことがあっても、まず、それは自分ごととして、それを「自分で提案する」、みんなで話し合っていく、ということがいかに大切かということに気づいていただけたんではないかなと思っています。

こんなにたくさん皆さんとお話ができたことは、とてもうれしかったです。
今日は最後に、いつも礒谷さんが私に言われることがあります。
話し合いのあとに、一緒に話し合った方々と、参加した人。
自分自身に感謝しましょうって言って拍手をされます。
皆さん、「TTP」って聞かれたことありますか。
「TTP」、「徹底的にパクる」。パクって伸長させるっていうのがあるので、皆さんいろんなところでもいいことは、徹底的にパクって、それをちょっと変えて、自分のものにするっていうことという意味です。
ですから、これをしないでもいっぱいいろんな材料が転んでいます。今日皆さんがいっぱい材料をふりまかれたと思いますので、その材料を大切にして、今度はご自分で、成長させていただきたいなと思います。
それでは、「徹底的にパクる」の拍手を皆さんと、ご自分自身でしたいと思います。
その評価を最後に礒谷さんに「これでよし」と言っていただきたいと思いますので、皆さん一緒にご自分と参加者の皆さんに拍手で感謝しましょう。
【拍手】

大月）礒谷さん「これでよかったでしょうか。」
礒谷さん）「はい。これでいいです。」
【拍手】

大月）それでは先輩の方から、認めていただきましたので、これからもいろんな、今日出てきたみなさんのご意見をいろんなところでパクって、いろんな地域で成長させて欲しいなと思っています。

■アンケート記入の案内■ （岩間企画委員）
■集会アピール朗読■（横山実行委員）
■閉会（17：10）■（岩間企画委員）

部落解放研究第 54 回倉吉市集会

第4分科会　高齢者の人権　会場:セミナールーム3

テーマ:誰もが安心して老いることのできる社会とは

分科会のねらい

それぞれの人生経験や思いに触れることで、参加者自身が「安心して老いるとは何だろう」と考えるきっかけの分科会に！

①老いは自分自身の問題と感じる　　②地域の孤立にきづく

③偏見にきづく　　④支え合いの可能性を感じる　　等

---------- 日　　程 ----------

午後3時 15 分　　あいさつ

分科会進行についてのオリエンテーション

午後3時20分　　ミニトークセッション

ゲスト　石田 敏光さん（前青山剛昌ふるさと館館長）

礒谷 弘子さん（傾聴ボランティア「あいりす」）

藤井 太陽さん（ケアマネージャー・社会福祉士）

聴き手　大月悦子　実行委員

午後3時 50 分　　グループトーク　＆　最後に感想の発表

午後4時 50 分　　まとめ

午後5時　　グループトーク　終了　　アンケートの記入

午後5時10分　　集会アピール朗読

午後5時15分　　閉会



第5分科会　「このモヤモヤはなんだろう？」
（分野）新たな人権問題　　（形式）グループワーク
（会場）鳥取県立美術館ホール　　（参加人数）85 人



１．開会　15:25

当初はホワイトボードを用いてグループワークを行う予定としていたが、会場の都合上難しいと判断し、参加者が QR コードを読み取ってアンケートに回答、その場で結果を自動集計し、内容を見ていただきながら話し合う新たな形式に挑戦した。

三谷推進員より、「皆さんが色々な形のモヤモヤを持っていると思う。この分科会ではそれを可視化して、なぜどんな時にモヤモヤするのかなど話し合っていく。一番意見が多いものについて話し合ったり、選択肢にないものも出て来るかもしれない。全く違う意見の方で話をするのも良い。しっかりまとめていきたい」とあいさつがあった。



２．はじめに

連絡事項

＜写真撮影について＞

市集会の記録用に、スタッフが写真撮影を行います

なるべく全体を撮るようにいたしますが、不都合がある方は、近くのスタッフにお申し出ください

広報等への写真提供希望がある場合は事務局にお知らせください

連絡事項

＜会場使用について＞

・館内に生もの（生花など）は持ち込めません

・水分は無糖に限ります

・後方のブラインドにはくれぐれもお気をつけください

連絡事項

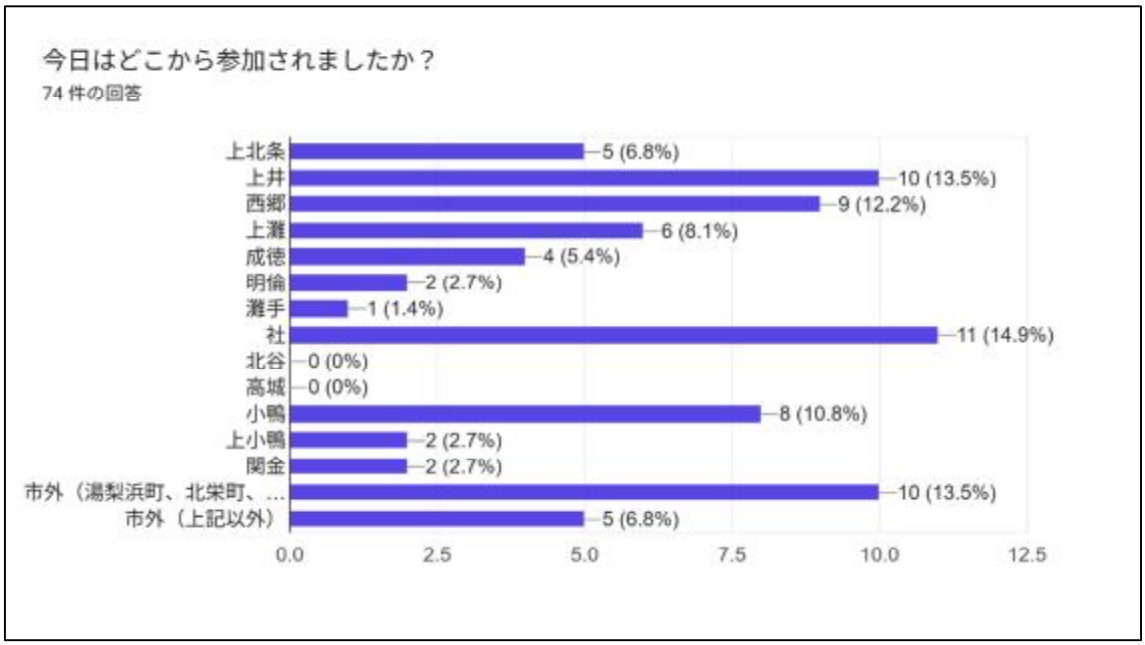
みなさまに気持ちよく楽しくご参加いただくために・・・

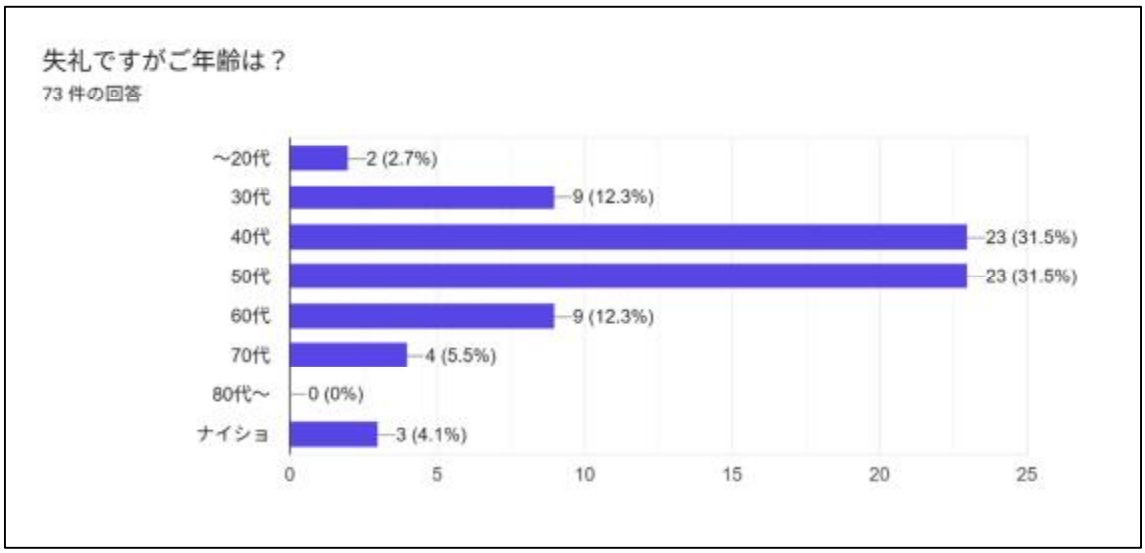
レジュメ記載のルールをご一読ください

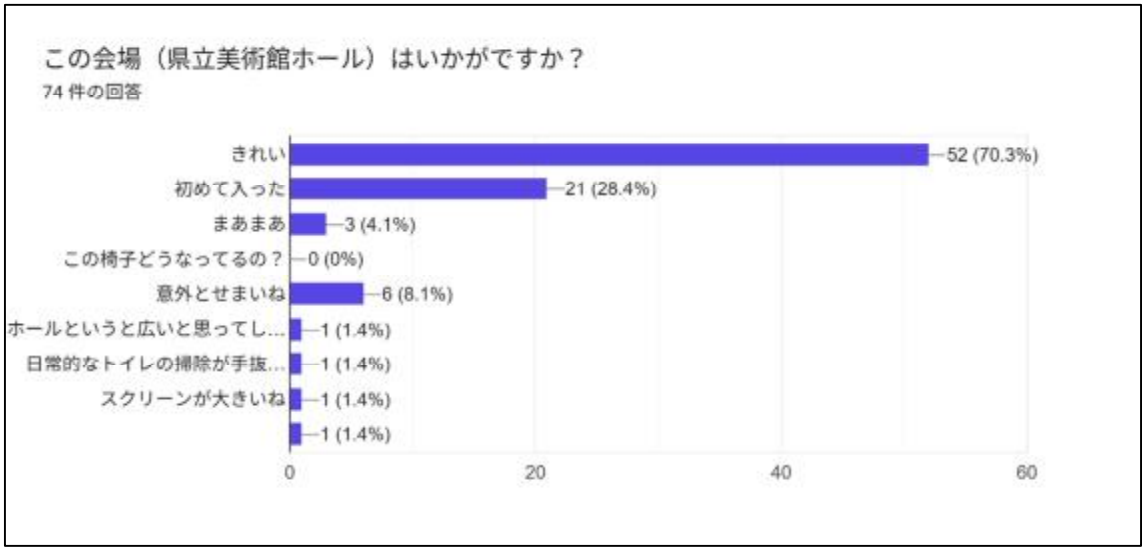


３．アイスブレイク


アイスブレイク
※先ほどの画面は閉じて
次は右のQRコードを読み取って、アイスブレイクに参加してみてください★


今日はどこから参加されましたか？
74 件の回答
上北条 5 (6.8%)
上井 10 (13.5%)
西郷 9 (12.2%)
上灘 6 (8.1%)
成徳 4 (5.4%)
明倫 2 (2.7%)
灘手 1 (1.4%)
社 11 (14.9%)
北谷 0 (0%)
高城 0 (0%)
小鴨 8 (10.8%)
上小鴨 2 (2.7%)
関金 2 (2.7%)
市外（湯梨浜町、北栄町、... 10 (13.5%)
市外（上記以外） 5 (6.8%)
0.0
2.5
5.0
7.5
10.0
12.5


失礼ですがご年齢は？
73 件の回答
～20代 2 (2.7%)
30代 9 (12.3%)
40代 23 (31.5%)
50代 23 (31.5%)
60代 9 (12.3%)
70代 4 (5.5%)
80代～ 0 (0%)
ナイショ 3 (4.1%)
0
5
10
15
20
25

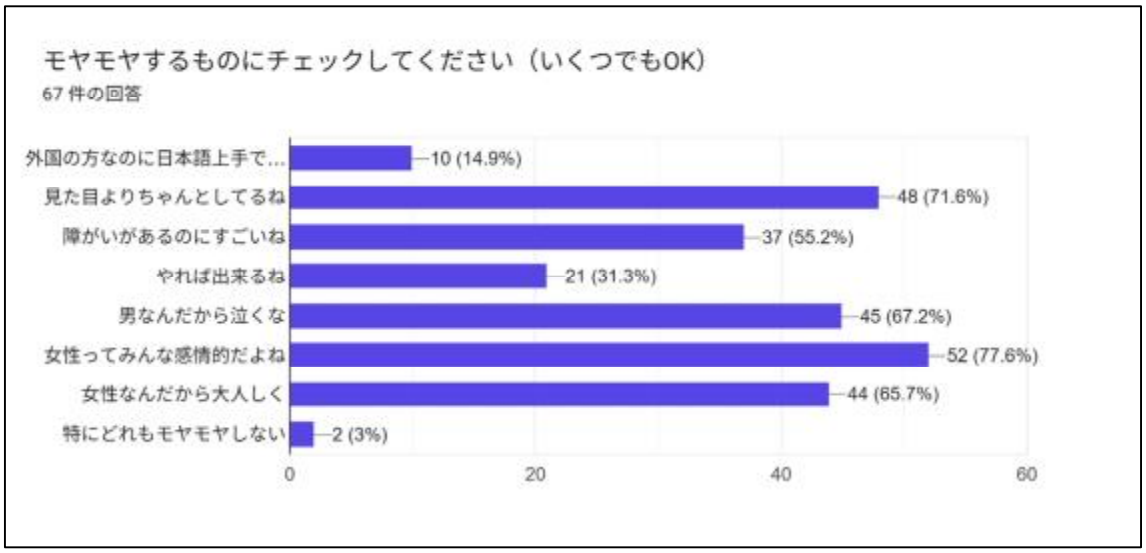


今の気分は？一言自由にどうぞ！

このような形の集会は素晴らしいと思いました。／
スマホ使用ということで、緊張しています。／
楽しみにしてます！／前の全体会の講演が、長いから大変でしたなあ。／
年配の参加者が多い！／さやか／涼しくて良かった／ドキドキしています。／
歩くのにくたびれた／楽しみにしてます。／何が始まるんだろう？／快適／
少し緊張してます／たのしみです！／緊張してます。／ゆったりとした空間です／
どんな話しが聞けるか、期待している／よろしくお願いします??／
スッキリ／人が多くて驚き／気持ちいい／悪くもなく良くもなく、落ち着いてはいる。／
どんな会になるんだろうと楽しみです／
どんなことするのかな？話すの苦手だから、心配。／疲れました／ドキドキ／
Wi-Fi があって安心した。通信に制限があるので、このような企画の場合はそのことも気に留めておいてほしい。／
意外と盛況！／何が始まるのかな？ワクワク！／気になるな／緊張／
モヤモヤスッキリするかな！？／どんな分科会になるか予想がつかず楽しみ／
精進／不安／不安／雨が心配／緊張しています。／
参加者が多いですね／どんなことをするのかな／暑い／疲れた／ドキドキしています。／
少し疲れました。／疲れています／特にはありません。／特になし／快適／
昨日より涼しい／暑い／第 3 分科会が突然中止になったのが心配。／
モヤモヤ晴れるかな？／さあ、何をするのかなあ。／

４．ワーク①





上記の言葉を聞いて、ほかにモヤモヤした言葉が浮かんだら教えてください
ヒステリック／お淑やか／ 痩せたらカッコいいね！痩せてた時はカッコよかったね！／ 若いんだから我慢して／太ってるから痩せろ／花が好きとかっていうイメージじゃない／ ひとりできたの?／ 正職員なんだから仕方がない。とか、子どもがいるから仕方ない。とかは、理解はするが、不公平と思う。／ そんなことくらい○○なら当たり前／ふつう／

どのような状況でモヤモヤするのか（したのか）、なぜモヤモヤしたのかなど、ぜひ自由に意見をお聞かせください
性別による決めつけ／お子さん普通に見えますよ。／ 私の何を知っているの？と思う／女性だからというのが、関係ないと思うから／ その人の人間性に関係ない部分が大きいから／ 固定概念があるような言い方をしている／ それを言われた側がどう感じているかわからずに言っているとしたらと思うとモヤモヤする。／ どちらも結局は現在、または過去を否定してるから／ できてあたりまえ／きめつけ／こうあるべきと思ったら偏見かなと。／ やればできる→言われた年齢にもよるが！バカにしていたような気がする／ 夫が家事、育児をしたら、イクメンと言われる。女がやるのは当たり前。。？／ 実際と異なる場合もある、人それぞれ。／兄弟はこうだからあなたもできるよね／ 見た目で判断されるのは嫌だ／ 女性も積極的になってもいい、決められと考えはちがう。いろいろな人があっていい／ モヤモヤしないことはそのままでいいのかな？／ 自分の主観で勝手に判断している点。／ステレオタイプを押し付けられるのは嫌／ 誰かに決めるときの、理由として、これらを出されると反論する側が悪くなるから。／ 年齢を重ねた方の経験や価値観は否定しないが、自分がこうだったからあなたもやって当たり前というような押し付けが腹が立つ。／決めつけだから／ 女性でも色んな女性がいるので、こうであるべき的な事は言ってほしくない。女性だからといって大人しくしないといけないと思わない。／

- アンケート結果を踏まえ、「なぜモヤモヤするのか」を５～10 人程度のグループに分かれ、話し合った。実行委員が進行役として補助に入った。

グループワークで出た意見等
・設定そのものがあんまりじゃないか、シチュエーションがよくわからなくてどうしてもモヤモヤするような言葉に感じてしまう、という意見が多かった。どういう場面なのかがもう少し分かればもっと何か違う言い方もできるかもしれない、モヤモヤと言うよりカチンとくるような言葉もあるという意見も出た。
・モヤモヤする言葉として「見た目よりちゃんとしてるね」「男なんだから泣くな」「女性ってみんな感情的だよね」が多く挙がった。誰に言われたか、相手の立場によって、自分がモヤモヤするかしないかの感じ方もかなり違い、シチュエーションによってモヤモヤすることとしないことがあるということを共有した。
・「外国の方なのに日本語上手ですね」については、「日本語上手ですね」だけであれば悪くない。「外国の方なのに」が付くとモヤモヤする、という意見や、「見た目よりちゃんとしてるね」というのは少し上から目線だなという意見、「男なんだから泣くな」というの

はまだ世の中でもよく言われることがある、男の子でも泣いていいんだよという意見が出た。また、「女性ってみんな感情的だよね」「女性なんだから大人しく」については、女性だけではない気持ちがありモヤモヤするという意見があった。
・「外国の方なのに日本語上手ですね」「見た目よりちゃんとしてるね」「障がいがあるのにすごいね」については、本人の努力で何とかできるかもしれないが、「男なんだから泣くな」「女性ってみんな感情的だよね」「女性なんだから大人しく」については、性別は努力してもどうにもならない。そもそも全てが固定概念だという意見があった。また、全体的に言葉が足りないので、補足する言葉があればまた違うかもしれない。言われたことに対して、自分の中に落とし込んで逆に跳ね返してやろう、自分にも何か悪いところがあったかもしれないと考えるきっかけにもなったということも共有した。
・まず「見た目よりちゃんとしてるね」という言葉に関しては、言う側と言われる側、それぞれ時と場合によって、捉え方も変わってくる、内容や人によって受け取り方が全然違うという話が出た。また、「男なんだから泣くな」という言葉については、言われたことに対して反論できない自分にモヤモヤするという意見もあった。学生の制服についての話も出たが、女性らしく・男性らしくではなく、それぞれ自分らしくあるべきだという話もあった。

まとめ（前半）

設問の仕方についてどうなのかという意見も聞かれたが、実行委員会の中で協議し色々考えてきたところでもある。自由記述の部分を見ていただくと、日常的にはさらに様々なモヤモヤ感があることが見えてくる。

全体会でも話があったが、無知だとモヤモヤは湧いてこない。関心があるから、モヤモヤ感やイライラ感が出てくる。「知ること」というのは、ただ知るだけでなく、そこからもう一度自分を見つめ直すことにつながってくる。

また、「女性って感情的だよね」に関連するが、「女々しい」という言葉がある。これは完全に日常的にすり込まれており、「弱々しい＝女性」だということが前提になっているところがまだ生きている。さらにテレビなどのメディアや日常会話においても、「妻」とは言わず、「嫁」と呼ぶことがまだあり、この時代でまだこんな言葉を使うのかと感じる。

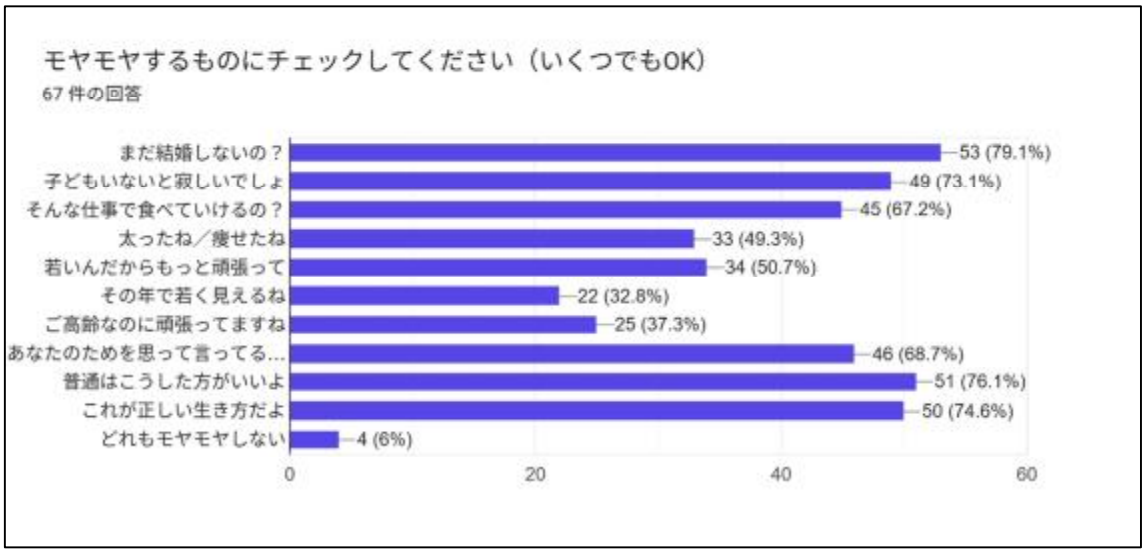
「外国の方なのに日本語上手ですね」という言葉について、皆さんは、外国籍なのに日本語しか話せない人もいることをご存知だろうか。実は、日本のここ 150 年の歴史の中で言うと、日本で生まれて日本で育った在日コリアンの人たちは、朝鮮語、韓国語を話せない人が大半。歴史をちゃんと知っていれば、そんなことも言わない。自分もそれを知った時に、まだまだ知らないことがたくさんあったんだということを痛感させられた。

（三谷運営推進員）



5．ワーク②





上記の言葉を聞いて、ほかにモヤモヤした言葉が浮かんだら教えてください
もっと頑張れるよ／歳だから自分には無理。あなたには無理。／ 深い意図はないのでしょうが「外国人」ではなく「外人」と表記や発言する方にモヤモヤします／ 男だから力仕事するのは当たり前だ。／その色の服、よく着られるね／ 泣いても解決しないよ。／ちゃんとして！／あなたは、もっとちゃんとしていると思った／ 男のくせに／基本的に他人を褒める言葉自体にモヤモヤする。言う必要がないのでは？／ こうするべき／お子さん女の子だけだと、男のこがほしかったでしょ。／ お子さん１人？2 人目作らないとお子さんが可哀想／令和の時代にそれは無いわ。／ 自分のことを心配して言ってくれているのは分かるし、悪意感じるわけではないが、何度も言われると余り良い気がしない。／

どのような状況でモヤモヤするのか（したのか）、なぜモヤモヤしたのかなど、ぜひ自由に意見をお聞かせください
普通は人それぞれ違うから。／ 「外人」という言葉は「outsider」というニュアンスで排外主義を助長してしまいがち。このあたりの感覚はもう少し学んでほしいと思っています。／ 本人が決めてしている事なら応援する言葉をかけてほしいと思う。／ 我が家は、子どもがいないから、それに触れられるとモヤモヤする／ 自分の中の物差しで測っているから／なぜ結婚しないの？はいいのかな？／ 言われる側になったらモヤモヤ／ あなたに関係ないのでは？という話をされるとモヤモヤする。／ 過去は駄目な存在で新しいものこそ正しいという、あらゆる事象への破壊的テロリズム。／

- 会場内の人数が予定より多く、ワーク①で話しづらい雰囲気があったため、ワーク②では、グループワーク形式ではなく隣同士で会話するペアワーク形式に変更した。ワーク①より会話が弾んでいる印象であった。
- ペアワークの後、順番にマイクを回していき、話せる人は話す、話したくない人は次の人にパスをする方法で話し合った内容や感想を自由に述べていただいた。

ペアワークで出た意見等
・話す相手との関係性は大きい。むしろ自分は、「若いんだから頑張って」という言葉は、「自分ももっと頑張らなきゃな」と思うし、「若く見えるね」とか「高齢者なのに頑張ってますね」っていうのは、将来言われたいなと思う。ただ、関係性ができてない人に言われたら嫌だと思う。人間関係が大事だなと改めて思った。
・信頼関係と話す内容の背景もあるので難しいが、その中で「そんな仕事で食べていけるの？」という言葉はアウトだと、これを言われるのが一番厳しいなとペアで話した。
・実際に自分が言われたことも何件かあった。言葉の捉え方によってモヤモヤすることもある。自分も周りの人に言ってしまってないかなと考える良い機会だった。
・自分は 30 歳で結婚したが、25 歳を過ぎると「まだ結婚しないの」と言われてきた。結婚したら、次は子どもは？と言われるようになり、1 人目ができた後は 2 人目まだ？と言われ、もう「社会がそう決めていることなのかな」とさえ思った。私自身もいろんな背景があったので、言葉を発するときには、いろんな背景があるということを考えながら話をしていかないといけないのではないかなと日々感じている。
・１～６は全て余計なお世話。「あなたのためを思って言ってるんだけど」というのは、「大事なことを言うんだけど」なら分かるが、「あなたのため」という理由はいらない。「若いんだから」とか「高齢なのに」という決めつけも不要。
・「太った」「痩せた」「若い」など、誰に言われるか、どういう関係性なのかにもよる。関係性を構築することを考えながら発言したほうがいいと思った。

・職場などで、「あなたのためを思って言ってるんだけど」という気持ちを持ちながら後輩を指導することもある。アンケートを見ても７割の方がチェックを入れている。今後どういう感じでアクションを起こしていったら良いか、いいアイディアがあったら教えてほしい。
・上に記載されている３つの言葉は、“相手に配慮して言わない言葉”であるのに対して、相手を心配している言葉もいくつかあると感じた。自分の中では 9 番の、「普通はこうした方がいいよ」という言葉が、新しいことにチャレンジしているとき、普通と違うことが分かった上でしている場合には、モヤっとするのではと感じた。
・人生の中で全て言ったことがある言葉。これらを仮に２つに分けるとしたら、上半分は、固定概念が関係しているのではと考えた。
・「放っておいてくれ」という言葉がほとんど。自分で決めること、だれにもとやかく言われたくないというものが多いように思う。
・「普通はこうした方がいいよ」「これが正しい生き方だよ」という言葉について、普通とか、正しいという価値感は、言っている人の価値の範囲で言っているだけだと思うので、言われる側にしたら、自分のしていることの方が普通だし正しいと思っていれば、もうその時点で話が合っていないように思う。
・４歳になる娘がいるが、ここに挙がってる言葉っていうのは、絶対に世の中からはなくならないし、先ほど出た「女々しい」という言葉はそもそも日本語としてある。この言葉を言われても負けないような子どもたちになってもらえたらいいなと思った。
・「あなたのためを思って言っている」ということではなく「自分はこう思っている」と言えばうまくいくのでは。また、自分は子どもがいないので「子どもいないと寂しいでしょ」と言われると腹が立つ。「あなたならもっとちゃんとやれるのに」と言われ、モヤモヤしたこともある。
・ほとんどの言葉にチェックを入れた。余計なお世話だと思ったし、価値感を押し付けないで欲しいなと思った。
・結婚や子どものことについては、これからお盆に入って近しい親戚と久しぶりに会ったときに、そんなことを言われたら嫌だなって思いながら帰省するのもなぁと思った、ドキッとした言葉。
・後期高齢者なので「ご高齢なのに頑張ってますね」以外は全部チェックを入れた。「ご高齢なのに～」は受け入れることができる。
・全部チェックを入れた。「若い」「普通は」はどこが基準？と思うが、子どもの頃は「みんながこうしている」と言い「みんなって誰？」と突っ込まれていたなと思い出した。
・全部チェックした。言ったことも言われたこともある。
・「まだ結婚しないの？」は自分も言われてきたので、子どもには言わないようにしようと決めている。
・こういう会も含め、周りの人に配慮した言葉かけを意識するような社会になってきたのかなと思うが、先ほど関係性という言葉があったように、特に上 3 つは身内や近い関係の人から言ってしまいがち、身内に言われると余計腹が立つというようなところもある

と思った。
・言い方で、捉え方も違ってくるのを感じた。「その年で若く見えるね」と言われたらモヤっとすることもあるが、「若く見えるね」だけ言われると、褒め言葉として取れるところもあり、言い方次第で感じ方も違ってくるのかなと思った。
・全部、思うことはあっても言わないようにしている言葉だと思う。
・何が一番モヤモヤするかと言ったら、こういう狭くてネガティブな固定観念を人に押し付けてくる人に一番モヤモヤをするんじゃないかと思い、そういう人にはきちんと反応したいなと思う。
・場面や関係性もあると思うが、言われたとき横で聞いていても、モヤっとする、嫌だなと思う言葉だと思った。
・こういうことを言ってくるのは大体父親とか母親で、そう言ってこっちの身を案じているんだろうなと思う。そういう意味では関係性を大事にしなければと思うが、実際親にはどの言葉を言われても、腹は立つ。
・結婚してすぐ子どもが欲しかったが、子どもができるまでに 3～4 年かかった。実際友達にも、早めに子どもを作ったらと言われたりしたこともある。欲しいという気持ちがあってもなかなかできない事情があり、友達が心配してくれるのもわかっていたので、つらい思いをした。背景を考えて言っていかないといけないと感じた。
・色々モヤモヤするものはあったが、「普通」ってどんなのが「普通」なのかというところに一番モヤモヤした。
・「高齢なのに頑張ってますね」というのはなるべく言わないように気をつけているつもりだったが、先日、20 代の子から「Ｔｉｋ Ｔｏｋ使ったほうがいいですよ」と言われ、それがマウントを取っているように思えてしまい、自分が年上に対して思ったことはいつか自分に返ってくるなと思った。向こうは「若い子はみんな使ってるので」というノリで言ってくれていると思うが、お互い様なところもあるのかなと思って話をしていた。
・自分の受け取り方次第で、モヤモヤせずにスルーできるところもあるんだなとも思った。70 代の母が、インスタグラムやフェイスブックを使って色々情報発信してるのを見て、頑張っているなと思うので、そういう人生を生きていきたいなとも思った。
・「あなたのためを思って言っている」とか「普通はこうしたほうがいいよ」という言葉について、自分は息子がいるが、そういう気持ちで言っていても押し付けになってしまっているかなと思った。関係性とか信頼性とかその場のテンションとかいろいろあると思うが、相手のためを思って言葉を選んで話していかないといけないなと思っている。
・何度も言われると結構つらいこともある。最近よく痩せたねと色々な人から言われる。最初はあまり気にしなかったが、あまり言われすぎると、病気かもしれないなどと不安に思ってしまったり。言われてもいいが、重なると結構傷つくこともあり、マイクロアグレッションとよく言うが、そういうのもあるのかなと思う。「結婚しないの」という言葉も、自分を心配してくれている言葉だと分かるが、親戚が集まってるところでいろんな人に何度も言われるようなことがあれば多分傷つく、ということになるんじゃないかなと思った。

・先ほどの太った痩せたという話で、痩せたというのはダイエットという面もあるが、病気などマイナスイメージもあるということで、それが繰り返されるとどうかなという話をした。逆に、ダイエットしている人からすれば、痩せたねと言われたい。それぞれの立場で違う、人それぞれ受け取り方が違うということを感じた。
・「これが正しい生き方だよ」というのは、その人の価値感を押し付けられていると取れるし、自分自身も逆に、誰かに正しい生き方だよっていうのを押し付けていたんじゃないかなと感じた。
・「これが正しい生き方」って、一番言われたらイラっとくることだと自分自身思った。だけど思い返すと、中学生の子どもがいるが、夏休みも勉強を全然せずにサッカーだけして昼寝ばかりして、その子どもに「勉強するのが正しいんだ」ってキレている自分、自分が一番言われたくないことを言ってることに気が付いた。
・ここに挙がっている言葉を見ると、すべてがモヤモヤする言葉だと思うが、すべての言葉が、そういうつもりで言ってない言葉だとすれば、しっかり思いを相手に伝えるということと、相手を思いやってコミュニケーションをとることが大事なのかなと思った。
・過去にあった出来事を思い出し、その場を立ち去る人に言われた一言というのが一番モヤモヤするなと思った。相手と対面したときにこちらから言い返せる間柄であれば解消していく内容でも、その場限りの一瞬の出来事に対して、消化不良というのがよくあるなと思う。
・全部チェックを入れたが、その中でも、「その年で若く見えるね」とか、「高齢なのに頑張ってますね」っていうのは、要らない言葉が入っている気がする。「若く見えるよね」であれば嬉しいなとか、頑張ってるよねって言われたら年齢関係なく頑張っているので、要らない一言がなければいいのにと。「これが正しい生き方だよ」とか、「普通はこうした方がいいよ」というのは、就職のときなどに子どもに言いがちで、あなたのためにと言いながら、結局は、自分のためじゃないかなと感じた。将来自分に迷惑かかるんじゃないかとか、世間体がどうとか、そういうことを考えて言っているようなところが見え隠れするのでモヤモヤすると思った。
・皆さんが言われるように、関係性とかシチュエーションっていうところもすごく大きく関わってくる全部のフレーズだとは思うが、例えば、「普通はこうした方がいいよ」とか、「これが正しい生き方だよ」というのも、自分はこうした方がいいと思う、とか、自分はこんなふうに生きたいと思っている、という言い方に変えると受け入れられる、そういう考えもあるんだなと捉えられるので、伝え方次第なのかなと思う。
・「普通はこうした方がいいよ」とか、「これが正しい生き方だよ」というのはお年寄りの方が、特に母親なんかがよく言っていた。そのたびに言い返しはしていたが、いわゆる反面教師で、こういう親になっちゃいけないなというふうに思ったもの。正月になると、「冥土の旅の一里塚」とか、私と喧嘩したりすると「子ども叱るな来た道だ、年寄り笑うな行く道だ」と言われたり、その母も亡くなったが、反面教師にしながら、子どもたちに伝えていくことが大事かなというふうに考えている。





６．まとめ

今回、「モヤモヤ」をテーマにしたところ、多くの方に関心を持っていただき、ご参加いただけたことを、本当にうれしく思う。

先ほどの感想でも言われていたが、自分自身も言ってきた、言われてきた、また、周りから聞いたり、直接ではないが周りの人がその言葉を言っていることに対してモヤモヤしたり、小さい時から親に言われてきたりということがあったのではないかと思う。

感想の中に「体裁」ということがあったが、私自身も振り返ってみると、「学歴」をすごく気にする、自分自身が気にしなくても、周りが気にする、親が気にする、というところが身近なところにあると思ったところ。本人と親が決めていることに対して、周りが、どこに就職するの、どこに進学するの、というところを聞いてくるのは、何のために聞くのかというところと、それが結果的に、自分自身の体裁、自分の子どもはどうだとか、自分の孫が･･･というようなところに繋がっていくのではないかというふうに思う。決して悪気はないと思うが、無意識に出てくるところがある。

これらの言葉を受けたとき、人は、表情に出がちになる。いい面だろうと、モヤモヤする面だろうと、表情に出るのは仕方が無いと思うが、目を見て、表情を見て話をしたいと思えば、やはり表情を見逃さないようにはしたいなと思う。そして、本人に悪気がないから･･･と終わらせるのではなく、それに気付ける人になりたいと感じた。

ここ最近は特に見たいもの、関心のあるものだけを見たり調べたり、確かな情報でないかもしれないものを人から聞いたり、ネットで調べたものがあたかもそれが正しいものとして判断され、鵜呑みにしてしまうということがあるが、そういったことを「違和感」として感じながら過ごすことが、結果的に差別をなくすことに繋がっていくのではないかと思っている。

人は人の心を見ようとしないと見られない。
今回の学びの中から、また、自分自身も振り返りながら、コミュニケーションをとる相手をしっかり尊重しながら、今日の講演会にもあったように、想像力のアンテナをしっかり張って、誰もが生きやすい社会を、皆さんと一緒に過ごしていきたいなと思っている。（門原運営推進員）

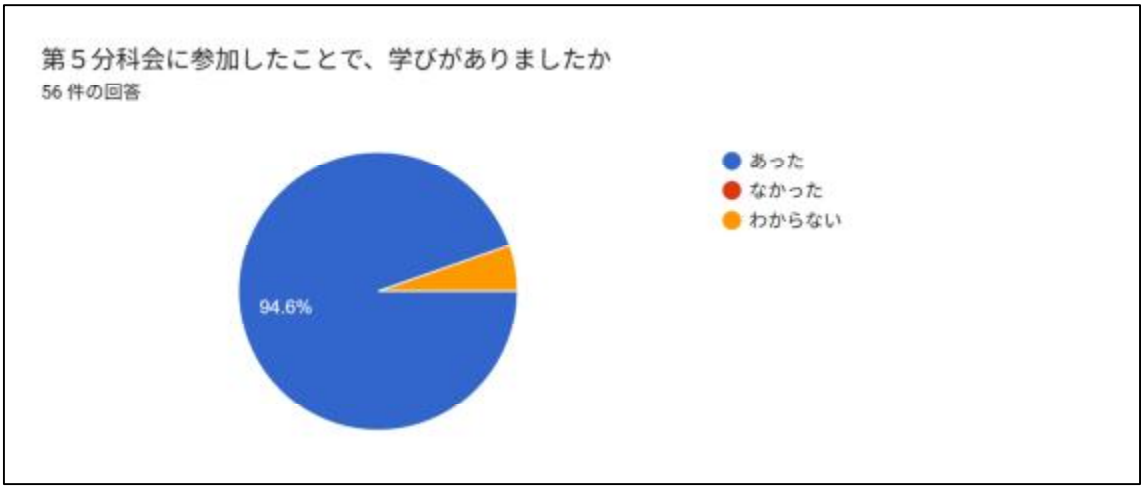


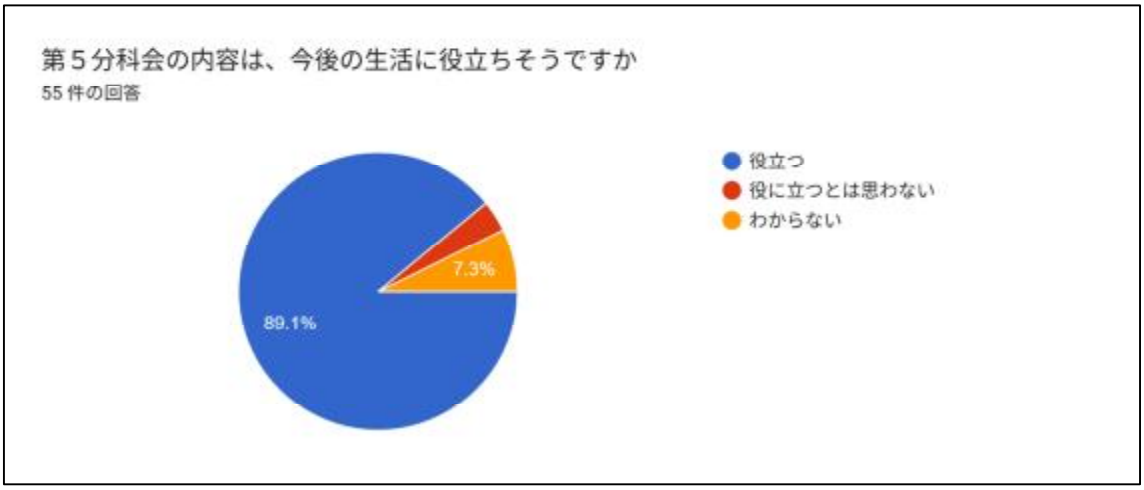
アンケート入力（記入）

今日感じたことや気づいたことを教えてください
・考え方は違うということはわかりました。知らない方と話すのは緊張します。 ・２時間は長い／・面白かった ・まず、モヤモヤの定義を行わないと、設問の評価の立ち位置が、バラバラになり、議論が深まらないと思う。 ・言い方や、シチュエーション、関係性などでモヤモヤがかわるなぁ…と再認識しました。 ・固定概念で話していることがあると気づいた／・全体会は大変まなびが多かったです。 ・モヤモヤについて、色んな方の意見を聞くことができて学びになりました。 ・皆さんのモヤモヤを聞くことができて良かった／ ・自分も言ってないか気をつけていこうと思った ・会話が大切なこと相手を尊重すること／・たくさんの意見が聞けてよかったです。 ・匿名で回答できるのはありかまたいです。もっと匿名性が高くなれば多様な意見が出たかなと ・モヤモヤすることを言われた時には受け取り方を変えてみようと思った ・話をする時は相手がどう思うんだろうと考えてから話をしようと思いました。 ・モヤモヤを共有できて、良い時間でした。／・色んな意見が聞けて良かった。 ・何気なく使っている言葉について考えるきっかけとなりました。 ・アンコンシャスバイアスを理解したい ・せっかく匿名性の高いアンケートを利用しているのに、一人ひとりに発言させたら意味がないんじゃないかと思う。思っていた研修形式と違っていた。 ・普段何気なく言っていることや言われていることだったが、よく考えるとモヤモヤする言葉だと感じた。 ・言葉を発する前に相手がどう思うのか考えられたり、言われて嫌だったことは人にしないことを気をつけていきたい。 ・自分が伝えたいことは相手がどう受け取るかで全く異なってくると感じた。相手の立場になって発言したいと思った。 ・自分が言われた言葉、言われるかもしれない言葉。自分が言うかもしれない言葉などいろんな言葉がありました ・自分が言われたらモヤモヤするのに子どもには言ってしまいそうな言葉もあり気をつけようと思いました ・モヤモヤすると回答しながらも、自分でも言ってしまっている言葉がいくつかあった。 ・伝え方によって捉え方や感じ方が違うと気づくことができ、普段の自分の言葉掛けを気をつけていきたいと感じる良い機会になりました。ありがとうございました。 ・言葉が少し足らないと取られる印象が変わってしまう ・言葉のかけ方と相手の背景を理解することが大切　いろいろな考え方や自分自身反省

する点もあって、気づかされました。
・沢山の方々モヤモヤしていることがありその共有をすることで気がつく事につながるなと思いました
・自分から、相手のことを思う、考えることをやめないようにしないといけないなと思った。
・多くの参加者に発言の機会があり、様々な思いを聴くことができた。
・伝え方、コミュニケーションの大切さを改めて気付かされた
・相手との関係でモヤモヤか、否か、変わってくると改めて思いました。相手の立場になってかんがる視点の大切さを学び直しました
・モヤモヤについて、会話することも大切
・他人について価値判断をすることは避けられないが、それをわざわざ言うことは不要。差別は結果なので、発言しないことが大切。
・自分の思い込みや固定概念が、他者を傷つける事があることに気を付けていきたい！
・いままで、無意識に使っていた言葉も他人を傷つけていたかも、と考えさせられました。
・モヤモヤ言葉は相手との関係性で捉え方が変わってくる。言い方で相手をモヤモヤさせてしまうことがある事を考えながら言葉を選ぶことが大切。
・アンケートの中のどんな言葉も自分の中の固定概念からくるものだったりするので、実際にアンケートを取りながら進めることで、自分はモヤモヤしていても相手にとってはそうでもない、または反対の時もあることを改めて感じた。気をつけたいとおもう。
・差別を無くすにはまず、知る事、学ぶこと、触れ合う事が大事だと認識した。
・いろいろな人の話を聞くことができて、受け取り方は人それぞれ様々だと感じました。だからこそ、相手としっかりと対話することの大切さを感じ、自分の価値観を相手に押し付けないようにしたいと思いました。
・モヤモヤする事は気に留めないことや忘れてしまうこともたくさんあると思います。相手の立場や考えを尊重せず押しつけにならない様、日々気に留めながら生活していき、差別やモヤモヤになりそうな事を言う人がいれば、話し合って分かり合えたらいいなと思います。
・思い込みや決めつけが自分にあることに気づき日々意識して、安心して話ができる関係をつくっていきたいと思いました。ありがとうございました。
・自身が言われてモヤモヤした事もあるが、自身が他者に言っている事もある事を感じた。相手が置かれている立場や背景を考えながら、発言に気をつけていきたい。
・参考になる勉強でしたが案内に「新たな人権問題」「多数者が少数者に対して持つ」特権意識や差別意識とあったので、昨今の排外主義についての問題も扱われるものと思っていました。次回はぜひ外国人差別問題も取り扱ってほしいです。
・開催要項に書いてあったように、マジョリティの特権に気づくことやマジョリティ性との向き合い方について考える視点があるとよりよかったのではないかと思います。
・モヤモヤの原因は価値観の相違と相手からの価値観の押し付け。差別や偏見はなくなら

ない。相手は簡単に変えられない。屈しない自分になることが大事。
・周りの方とお話しすることで気付きが多くありました。
・皆さん活発に意見が言えてすごいなァーと思いました。
・いろいろな年齢や立場の人の話がきけたのは良かった。
・なかなか面白い取り組みであった。特にスマホでやって良かった。
・身近なことでふり返る機会となりました。いろいろな意見が聞けた。(立場はいろいろ)





７．集会アピール朗読

（出西実行委員）

８．閉会　17:15



参考資料

第 54 回倉吉市集会　第5分科会

このモヤモヤはなんだろう？

●日時　2026 年8月9日（日）
15:15～17:15
●会場　県立美術館　ホール



1．開会

2．はじめに

3．アイスブレイク

アイスブレイク

4．ワーク①

＜休憩＞

5．ワーク②

6．まとめ

7．集会アピール朗読

8．閉会

アンケート

＜分科会のルール＞
①他人を傷つける発言（書き込み）はご遠慮ください
②多様な考え方を尊重しましょう
③事例を出すときは個人情報に注意しましょう
④見るだけ、聴いているだけでも大丈夫です
⑤居心地が悪いと感じた時は席を外してもかまいません
⑥他の参加者に許可なく写真を撮ったりSNSに投稿したりしないようにしましょう
⑦分からないことがあったら近くのスタッフ（首からネームをかけています）に尋ねてください

［会場使用に関する留意点］
・館内に生もの（生花など）の持ち込みはできません
・水分補給は会場内のみ可能です（無糖の飲料に限ります）
・後方のブラインドには触れないよう、また、付近に物を置かないようお願いします

第５分科会「このモヤモヤはなんだろう？」

身近な言葉について考えてみましょう＜ワーク①＞

No.	モヤモヤする言葉にチェックしてください	チェック
1	外国の方なのに日本語上手ですね	
2	見た目よりちゃんとしてるね	
3	障がいがあるのにすごいね	
4	やれば出来るね	
5	男なんだから泣くな	
6	女性ってみんな感情的だよね	
7	女性なんだから大人しく	

他にモヤモヤする言葉が浮かびましたか？

どんな状況で、なぜモヤモヤしましたか？



1／2

身近な言葉について考えてみましょう＜ワーク②＞

No.	モヤモヤする言葉にチェックしてください	チェック
1	まだ結婚しないの？	
2	子どもいないと寂しいでしょ	
3	そんな仕事で食べていけるの？	
4	太ったね/痩せたね	
5	若いんだからもっと頑張って	
6	その年で若く見えるね	
7	ご高齢なのに頑張ってますね	
8	あなたのためを思って言ってるんだけど	
9	普通はこうした方がいいよ	
10	これが正しい生き方だよ	

他にモヤモヤする言葉が浮かびましたか？

ワーク②QRコード

どんな状況で、なぜモヤモヤしましたか？


第５分科会へようこそ
本日は、倉吉市集会第５分科会にご参加いただきありがとうございます。
まずは一緒にアイスブレイクをしましょう♪
Google にログイン すると作業内容を保存できます。詳細
今日はどこから参加されましたか？
上北条
上井
西郷
上灘
保領
明倫
東手
社
北谷
高城
小鴨
上小鴨
関金
市外（湯梨浜町、北栄町、琴浦町、三朝町）
市外（上記以外）

1/7


失礼ですがご年齢は？
~20代
30代
40代
50代
60代
70代
80代~
ナイショ
この会場（県立美術館ホール）はいかがですか？
きれい
初めて入った
まあまあ
この椅子どうなってるの？
意外とせまいね
その他
今の気分は？一言自由にどうぞ！
回答を入力
送信
フォームをクリア
Google フォームでパスワードを送信しないでください。
このコンテンツは Google particulier または承認したものではありません。 利用規約 プライバシー ポリシー
このフォームが不適切と思われる場合 報告

2/7


身近な言葉について考えてみましょう①
あなたのモヤモヤを引き出してください！
Google にログイン すると作業内容を保存できます。詳細
モヤモヤするものにチェックしてください（いくつでもOK）
外国の方なのに日本語上手ですね
見た目よりちゃんとしてるね
障がいがあるのにすごいね
やれば出来るね
男なんだから泣くな
女性ってみんな感情的だよね
女性なんだから大人しく
特にどれもモヤモヤしない
上記の言葉を聞いて、ほかにモヤモヤした言葉が浮かんだら教えてください
回答を入力
次へ
フォームをクリア
Google フォームでパスワードを送信しないでください。
このコンテンツは Google 作成または承認したものではありません。 利用規約 プライバシー ポリシー
このフォームが不適切と思われる場合 報告
Google フォーム

3/7


身近な言葉について考えてみましょう①
Google にログイン すると作業内容を保存できます。詳細
ここまでで気になる言葉がありましたか？
どのような状況でモヤモヤするのか（したのか）、なぜモヤモヤしたのかなど、ぜひ自由に意見をお聞かせください
回答を入力
戻る
送信
フォームをクリア
Google フォームでパスワードを送信しないでください。
このコンテンツは Google 作成または承認したものではありません。 利用規約 プライバシー ポリシー
このフォームが不適切と思われる場合 報告
Google フォーム

4/7


身近な言葉について考えてみましょう②

後半戦です！モヤモヤを共有し、深めていきましょう！

Google にログイン すると作業内容を保存できます。詳細

モヤモヤするものにチェックしてください（いくつでもOK）

- まだ結婚しないの？
- 子どもいないと寂しいでしょ
- そんな仕事で食べていけるの？
- 太ったね／痩せたね
- 若いんだからもっと頑張って
- その年で結婚見えるね
- ご高齢なのに頑張ってますね
- あなたのためを思って言ってるんだけど
- 普通はこうした方がいいよ
- これが正しい生き方だよ
- どれもモヤモヤしない

上記の言葉を聞いて、ほかにモヤモヤした言葉が浮かんだら教えてください

回答を入力

次へ　フォームをクリア

Google フォームでパスワードを送信しないでください。

このコンテンツは Google 外部または悪意したものではありません。利用規約 プライバシー ポリシー

このフォームが不適切と思われる場合 報告

Google フォーム

5/7


身近な言葉について考えてみましょう②

Google にログイン すると作業内容を保存できます。詳細

ここまでで気になる言葉がありましたか？

どのような状況でモヤモヤするのか（したのか）、なぜモヤモヤしたのかなど、ぜひ自由に意見をお聞かせください

回答を入力

戻る　送信　フォームをクリア

Google フォームでパスワードを送信しないでください。

このコンテンツは Google 外部または悪意したものではありません。利用規約 プライバシー ポリシー

このフォームが不適切と思われる場合 報告

Google フォーム

6/7


第５分科会参加アンケート

本日はご参加ありがとうございました
簡単なアンケートにお答えください

Google にログイン すると作業内容を保存できます。詳細

今日感じたことや気づいたことを教えてください

回答を入力

第５分科会に参加したことで、学びがありましたか

- ○ あった
- ○ なかった
- ○ わからない

第５分科会の内容は、今後の生活に役立ちそうですか

- ○ 役立つ
- ○ 役に立つとは思わない
- ○ わからない

送信　フォームをクリア

Google フォームでパスワードを送信しないでください。

このコンテンツは Google 外部または悪意したものではありません。利用規約 プライバシー ポリシー

このフォームが不適切と思われる場合 報告

Google フォーム

7/7

集会アピール

部落解放研究第５４回倉吉市集会において私たちは、

「安心して暮らせる人権尊重のまちをめざして」～地域課題を人権の視点で考える～を研究主題に、日々の暮らしの中にある人権課題に気づき、普遍的な権利である基本的人権の尊重に理解を深め合い、家庭や地域等のつながりを強め、課題解決へ向けて自分にできることを確認し合いました。

また、半世紀を超える集会の積み重ねをとおして、改めてあらゆる差別が存在していることに向き合い、差別行為によって損なわれた人間性の回復に向けた取り組みを実践するなかで、人権教育・啓発活動の大切さを認識してきました。

私たちは、部落差別をはじめとする様々な差別解消の取り組みに学び、地域社会で起こっている人権問題を自らの課題として、家庭や地域、職場、保育・教育の場でいかなる差別や人権侵害も許さない行動を実践していかなければなりません。

私たち市民一人ひとりは、つながりあい、自らの力で、市民と行政との協働による「第７次倉吉市あらゆる差別をなくする総合計画」の「お互いを認め、尊重し合える人権文化のまち」をめざして、人権の学びを日常生活に活かしながら行動しましょう。

ここに、次のことを広く市民の皆さんに訴えます。

一、　家庭、地域、職場、保育・教育の場で、人権学習に進んで参加し、実践の輪を広げます。

一、　差別をなくすために、積極的に行動し、身のまわりにあるあらゆる差別行為や人権侵害をしない、させない、許さない取り組みを進めます。

一、　家庭、地域、職場、保育・教育の場で、一人ひとりが互いを大切にし、尊重し合い、個性と能力を発揮しあえる、心豊かに暮らせる、安全で安心なまちづくりをめざします。

２０２６（令和８）年８月９日

部落解放研究第５４回倉吉市集会参加者一同

編集・発行：部落解放研究第 54 回倉吉市集会実行委員会

〒682-8633 鳥取県倉吉市堺町２丁目 253-1

電話 （0858）22−8130 ＦＡＸ （0858）22−8230

倉吉市ホームページ http://www.city.kurayoshi.lg.jp/

メールアドレス jinkenseisaku@city.kurayoshi.lg.jp

本記録集の複写・転載を禁止します